

## 2.6 調査結果

### 2.6.1 植物

#### 1) 確認種

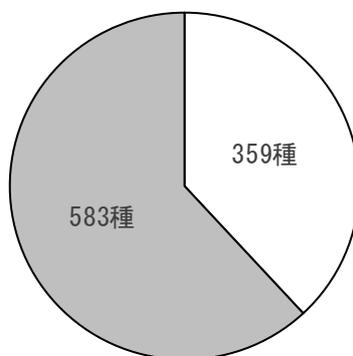
現地調査により、144科 943種の植物を確認した。確認種の分類毎の内訳は、表 4. 2-7 に示すとおりである。確認種の一覧は、巻末資料に示した。

確認種の多くは、植栽種が占めた（図 4. 2-3）。自生種としては、植栽木の下や堤防法面等に侵入した路傍雑草が主に確認された。また、河川敷や河川の水際には、一部植栽によるヨシ群落等が確認された。

表 4. 2-7 分類毎の確認種数一覧（植物）

門名	綱名	科数	種数	
シダ植物門	トクサ綱	2	5	
	シダ綱	11	26	
種子植物門	ソテツ綱	2	2	
	マツ綱	5	22	
	双子葉植物綱	離弁花類	77	430
		合弁花類	29	254
	単子葉植物綱	18	204	
2 門	6 綱	144 科	943 種	

注 1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成 29 年 10 月 12 日更新）（平成 29 年 国土交通省）に準拠した。



□ 自生 □ 植栽

図 4. 2-3 確認種の植栽種、自生種の内訳（植物）

注 1：自生個体と植栽個体の両方が確認された種は自生種として計上した。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の主要な植物の確認種を表 4. 2-8 に示す。木本類は、荒川河川敷では一部自生と考えられるオニグルミやアカメガシワが確認されたが、いずれの調査対象地区も公園緑化や街路樹等として植栽された種・個体が主であった。

草本類は、向島百花園では多様な種が年間を通して植栽されており、種数も最も多かった。また、荒川河川敷や旧中川河川敷の河川の水際沿いでは、ヨシ等の湿性植物群落が特徴的に確認された。その他の調査対象地区は、植栽地に侵入したメヒシバやセイタカアワダチソウ等の路傍雑草群落の構成種が多く確認された。これらの種は、各種の出現時期の違いに加え、除草管理の影響もあり、季節によって優占種が変化した。

表 4. 2-8 調査対象地区別の確認状況（植物）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	主要な確認種
1	荒川河川敷	59 科 212 種	樹林 草地 グラウンド 河川（水辺）	木本類：オニグルミ、ヤマグワ、アカメガシワ、ノイバラ、オオムラサキ 草本類：オギ、ヨシ、チガヤ、セイタカアワダチソウ、ネズミムギ、メリケンガヤツリ、シバ
2	東白鬚公園	91 科 374 種	樹林 草地	木本類：シラカシ、タブノキ、ユリノキ、ハマヒサカキ、ヒイラギモクセイ、ハナツクバネウツギ 草本類：コウライシバ、メヒシバ、アキノエノコログサ、タチアオイ、コゴメガヤツリ
3	向島百花園	121 科 505 種	樹林 草地 池	木本類：ケヤキ、イチヨウ、スダジイ、ヤマグワ、モッコク、ヤマハゼ 草本類：ハナショウブ、フジバカマ、リンドウ、アサザ、オミナエシ等、多数植栽
4	隅田公園	89 科 279 種	樹林 草地 池	木本類：イヌシデ、サクラ類、マテバシイ、クスノキ、アオギリ、アオキ、オオムラサキ 草本類：フッキソウ、ドクダミ、ハマスゲ、イヌワラビ、ウラジロチチコグサ
5	旧安田庭園及び横網町公園	92 科 278 種	樹林 草地 池	木本類：スダジイ、シラカシ、クスノキ、サルスベリ、ヤマブキ、ドウダンツツジ、ハナツクバネウツギ 草本類：スギナ、メヒシバ、ベニシダ、ヒメジョオン、ウラジロチチコグサ
6	大横川親水公園	97 科 362 種	樹林 草地 池・水路	木本類：シラカシ、モミジバフウ、ハクモクレン、サルスベリ、キョウチクトウ、ニシキギ 草本類：ヒメコバンソウ、ヒメジョオン、エノコログサ、メヒシバ、オオバコ
7	旧中川河川敷	51 科 170 種	草地 河川（水辺）	木本類：サクラ類、キョウチクトウ、トウネズミモチ、オオムラサキ 草本類：ヨシ、サンカクイ、タマスダレ、チガヤ、シバ、セイタカアワダチソウ
8	京島一丁目	103 科 359 種	住宅地 広場	木本類：シラカシ、アメリカヤマボウシ、カイヅカイブキ、サツキ、キンモクセイ 草本類：ナガミヒナゲシ、ブタナ、コゴメガヤツリ、メヒシバ、ハキダメギク

### 3) 重要種の確認状況

植物の重要種として 29 科 46 種が確認された。

ただし、確認された種の多くは、向島百花園において植栽された個体であった。そのため、他の調査地区における確認種と区別するため、向島百花園以外で確認された重要種を別表（表 4. 2-9）に、向島百花園にて確認された重要種は別表（表 4. 2-10）に整理した。

向島百花園以外の調査地区で確認された重要種のうち、自生個体はイワヒメワラビ、ウラギク、ニガカシュウ、アオガヤツリの 4 種であった。

重要種の確認状況は、表 4. 2-11 に示すとおりである。

表 4. 2-9 重要種の選定結果（植物）（向島百花園以外の調査対象地区）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種			
			1	2	4	5	6	7	8	①	②	③	④	
*1	コバノイシカグマ	イワヒメワラビ				●				●				DD
2	カバノキ	ハンノキ				●	●							VU
3	クスノキ	ニッケイ								●			NT	
4	ドクダミ	ハンゲショウ					●							CR
5	ウマノスズクサ	カンアオイ属		●									-	-
6	バラ	シロヤマブキ		●		●	●						EN	
*7	キク	ウラギク							●				NT	EN
8		カセンソウ								●				CR
*9	ヤマノイモ	ニガカシュウ	●											EX
10	イネ	マコモ					●							NT
11	サトイモ	ショウブ					●							VU
*12	カヤツリグサ	アオガヤツリ		●		●								NT
13	ラン	シラン		●		●			●	●			NT	
計	12 科	13 種	1 種	4 種	0 種	5 種	5 種	2 種	4 種	0 種	0 種	5 種	10 種	

注 1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注 2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年 10 月 12 日更新）」（平成 29 年、国土交通省）に準拠した。

注 3：重要種選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について（平成 30 年、環境省）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，CR+EN：絶滅危惧 I 類，

VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京 2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（平成 25 年、東京都）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，CR+EN：絶滅危惧 I 類，

VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，留：留意種

注 4：番号に\*印が付いている植物は自生していた種、それ以外は植栽された種であることを示す。

注 5：カンアオイ属は重要種に該当すると考えられるが、種まで同定できなかったため、ランクは記載していない。

表 4. 2-10 重要種の選定結果（植物）（向島百花園）

No.	科名	種名	確認地区	重要種			
			向島百花園	①	②	③	④
1	ヤナギ	ネコヤナギ	●				VU
2	タデ	サクラタデ	●				VU
3	キンポウゲ	カザグルマ	●			NT	EX
4		オキナグサ	●			VU	EX
5	スイレン	オニバス	●			VU	CR
6		コウホネ	●				VU
7		ヒツジグサ	●				CR
8	ドクダミ	ハンゲショウ	●				CR
9	ウマノスズクサ	カンアオイ属	●			—	—
10	オトギリソウ	トモエソウ	●				EX
11	ユキノシタ	キレンゲショウマ	●			VU	
12	バラ	シロヤマブキ	●			EN	
13	マメ	キハギ	●				VU
14		マキエハギ	●				EX
15	ミツガシワ	ミツガシワ	●				CR
16		アサザ	●			NT	VU
17	ハナシノブ	ハナシノブ	●		国内	CR	
18	ムラサキ	ムラサキ	●			EN	EX
19	クマツヅラ	カリガネソウ	●				EW
20	ゴマノハグサ	トウテイラン	●			VU	
21		スズカケソウ	●			CR	
22	オミナエシ	オミナエシ	●				EX
23	キキョウ	ソバナ	●				EX
24		キキョウ	●			VU	EX
25	キク	ノコギリソウ	●				EX
26		シオン	●			VU	
27		ヒゴタイ	●			VU	
28		フジバカマ	●			NT	DD
29	ユリ	ヒメユリ	●			EN	
30		アマドコロ	●				VU
31		台湾ンホトトギス	●			CR	
32		キイジョウロウホトトギス	●			VU	
33	ヒガンバナ	キツネノカミソリ	●				VU
34	アヤメ	ヒオウギ	●				EX
35	ラン	シラン	●			NT	
36		エビネ	●			NT	VU
37		クマガイソウ	●			VU	EX
計	22 科	37 種		0 種	1 種	21 種	26 種

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注2：重要種選定基準

①文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

国内：国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2018の公表について(平成30年、環境省)における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，CR+EN：絶滅危惧I類，

VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京 2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～(平成 25 年、東京都)  
における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，CR+EN：絶滅危惧 I 類，

VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，留：留意種

注 3：向島百花園で確認された重要種は、全て植栽された個体である。

注 4：カンアオイ属は重要種に該当すると考えられるが、種まで同定できなかったため、ランクは記載していない。

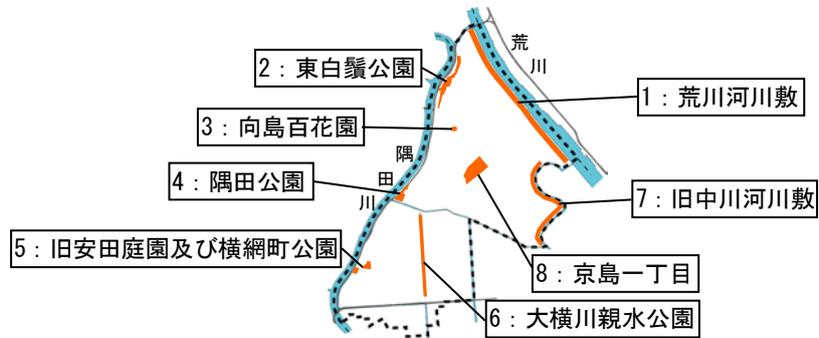


表 4. 2-11(1) 重要種の生態及び確認状況（植物）

No.1 イワヒメワラビ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                  夏緑性または常緑性シダで、根茎は長く這って黒い毛が密生する。葉柄は長さ 35～50 cm、有毛で毛の落ちた跡がざらつく。葉身は長楕円形から三角状長楕円形で、長さ 40～70 cm、幅 40 cm、3～4 回羽状複生である。草質から紙質、有毛または無毛、葉脈は全て遊離している。葉の成長は有限ではなく、先端がいつまでも伸長を続けることがある。孢子嚢群は葉脈に頂生し、辺縁近くにつき、包膜を欠き裸出する。日当たりの良い平地から山地に生育する。                  樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられている。工事に際して自生地を保全することや、下草刈り等の林床管理を行うことが望ましい。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (夏季調査, 横網町公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で横網町公園にて自生する 1 個体を確認した。                  秋季調査で京島一丁目にて自生する 5 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：情報不足 (DD)</p>	
No.2 ネコヤナギ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  雌雄異株の落葉低木で高さは 0.5～3m になる。下部からよく分枝し、株立ち状になる。小枝は長く灰色の軟毛を密生するが、のち無毛となる。冬芽は楕円形で大きい。葉は互生し、葉身は長楕円形で先が尖り、長さ 7～13cm、幅 1.5～3cm である。縁には細かい鋸歯がある。花期は 3 月上旬～4 月下旬で、葉が出る前に長楕円形の尾状花序をつける。河川上流域の渓谷から河川中流域の河岸、稀に丘陵の谷戸の湿地にも生育する。                  河川敷や護岸の改修等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川の整備において、ヤナギ類の自生地を保全することが望ましい。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季及び秋季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	

表 4. 2-11(2) 重要種の生態及び確認状況（植物）

<p>No. 3 ハンノキ</p> <p><b>【生態情報】</b>            北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。            落葉高木で、幹は高さ15～20mになる。葉は卵状長楕円形、倒卵状長楕円形、長さ5～13cm、幅2～5.5cm、鋭尖頭、表面は無毛である。花は葉の展開に先立って開く。雄花序は前年枝の先に2～5個、散房状につく。花被は4裂である。雄しべは4個で、花糸は分岐しない。雌花序は雄花序の葉腋に1個ずつつく。湿地や湿原に生育し、ときに群落をつくる。            開発による湿地の消失、河川の整備等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。徒長した個体や群落の回復には萌芽更新が有効である。</p> <p><b>【確認状況】</b>            春季から秋季調査までに大横川親水公園にて8個体、夏季及び秋季調査で旧安田庭園にて1個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	 <p>現地調査での確認個体            （春季調査，大横川親水公園            万華池周辺）</p>
<p>No. 4 サクラタデ</p> <p><b>【生態情報】</b>            本州・四国・九州・南西諸島に分布する。            多年草である。茎は直立し、多少枝をわけ、無毛で高さ50～100cmになる。葉には短い柄があり、葉身は披針形、長さ7～13cm、両端は鋭形。托葉鞘は短い筒型で、縁に長い剛毛がある。花期は8～10月で、総状花序は細長くてやや密に花をつけ、上部は垂れる。瘦果は三稜形、長さ約3.5mmである。低地から丘陵にかけての河川敷や谷戸の湿地、水田等に生育する。            河川敷や谷戸の湿地の攪乱停止による植生遷移の進行、湿地や水田への除草剤の多用、あるいは水田の放棄等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿地や谷戸田の管理を行うことや除草剤の使用を控えること等が望ましい。</p> <p><b>【確認状況】</b>            秋季調査で向島百花園にて3個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京            2013～東京都の保護上重要な野            生生物種（本土部）解説版～」            （平成25年、東京都）</p>
<p>No. 5 ニッケイ</p> <p><b>【生態情報】</b>            沖縄北部、久米島、徳之島に分布する。            常緑高木である。小枝は稜角があり、はじめ灰白色の短い伏毛を散生し、のちに無毛となる。芽にも灰白色の伏毛をしく。葉は革質で、長さ8～15cm、幅2.5～5cmの卵状狭長楕円形または狭長楕円形で、先は長く尖って基部も狭くなる。葉は初め灰白色の短い伏毛で覆われているが、のちに表面は無毛で裏面には伏毛が残る。三行脈は基部よりやや上で分岐し、側方の脈は上向して葉の先端近くまで及ぶ。横脈は細く、乾くと両面に隆起する。花期は5～6月で淡黄緑色の花である。果実は楕円形、長さは11mm程で黒紫色に熟す。根の皮から肉柱が得られる。</p> <p><b>【確認状況】</b>            夏季調査で京島一丁目にて植栽された1個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            環境省 RL：準絶滅危惧（NT）</p>	 <p>現地調査での確認個体            （夏季調査，京島一丁目）</p>

表 4. 2-11(3) 重要種の生態及び確認状況（植物）

No. 6 カザグルマ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州北部に分布する。                      木本性のつる植物である。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉、小葉は3～5枚、卵形で先は尖る。花は径7～12cm、萼片は8枚、淡紫色または白色の狭倒卵形で、花期は5～6月である。花糸は扁平で無毛である。瘦果は広卵形、長さは5mm、花柱は3～4cmで強く曲がり黄褐色の長毛がある。                      台地部岸線から丘陵地、山地下部の林縁に生育する。                      自生地は極めて限定的で、園芸目的の採取や植生遷移の進行、開発等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季及び夏季調査で向島百花園にて1個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 準絶滅危惧 (NT)                      東京都 RDB: 絶滅 (EX)</p>	
No. 7 オキナグサ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      根出葉は束生し、2回羽状複葉の多年草である。花茎は高さ10cm前後で開花するが、花後伸長して30～40cmになる。花期は4～5月で、花は1個が頂生して鐘型で下向きに開く。萼片は6枚、長楕円形、長さ2～2.5cmである。瘦果は多数が球状に集まってつき、狭卵形、長さ約3mm。外面は長い白毛で被われ、内面は暗赤紫色である。土手や崖、林縁の草地等、日当たりの良い草原に広範囲に生育する。                      管理頻度の高い、裸地的な環境を好んでいたとみられるが、広範囲で絶滅した要因は不明である。また、近県では生育が確認されており、東京都本土部で再発見される可能性はある。</p>	 <p>出典:「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」                      (平成25年、東京都)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で向島百花園にて植栽された1個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)                      東京都 RDB: 絶滅 (EX)</p>	
No. 8 オニバス	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      一年生浮葉植物で、植物体に鋭い刺がある。成熟した浮葉は楕円の円形で、直径0.3～1.5m(ときに2m以上)となる。表面には著しい皺があり、裏面には太い赤紫色の葉脈が隆起する。花期は8～9月、赤紫色の花を咲かせる。                      富栄養化した湖沼、ため池、河川等に生育する。                      池沼の改修、埋立て、水質悪化等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。また、一年草で種子の休眠率が強く発芽率が低いこと、種子が乾燥に弱いことから、浚渫による種子を含めた底泥の除去には注意する必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で向島百花園にて植栽された1個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)                      東京都 RDB: 絶滅危惧ⅠA類 (CR)</p>	

表 4. 2-11(4) 重要種の生態及び確認状況（植物）

No. 9 コウホネ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道西南部・本州・四国・九州に分布する。                  多年草である。地下茎は太く、地中を横に這う。茶褐色の葉痕が目立つ。水上葉は長卵形で長さ 20～30cm、幅 7～12cm である。径 4～5cm の黄色の花が 6～9 月に開く。花後、萼片の緑色が強くなる。                  湧水等の流入のある、低地から丘陵地、山間低地の池沼や河川に生育する。植栽されている場合も多く、自生との判断がつきにくい。                  池沼の埋立て、水量の減少等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季及び夏季調査で向島百花園にて 10 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	
No. 10 ヒツジグサ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  多年草である。地下茎は太く短く、葉は卵円形から楕円形で長さ 8～19cm、幅 5～12cm で無毛である。6～9 月に径約 5cm の花をつける。昼に開花し、夜には閉じる。花弁は 8～15 枚で、長さは萼片とほぼ同じ。果実は水中で成熟する。                  区部の荒川沿岸や武蔵野台地の池沼、及び南多摩の丘陵地のため池に記録はあるが、いずれも絶滅または危機的状況である。水質の綺麗な古い池に生育する。                  開発による池沼の埋立て、水質悪化、外来種との競合、園芸目的の採取等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で向島百花園にて多数の植栽を確認した。                  秋季調査で向島百花園にて多数の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧ⅠA類（CR）</p>	

表 4. 2-11(5) 重要種の生態及び確認状況（植物）

No. 11 ハンゲシヨウ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                  多年草である。地下茎は太く這い、群落となる。茎は高さ 50～100cm である。葉は卵形、基部心形、長さ 5～15cm、5～7 脈があり有柄である。花期は 6～8 月で、花序に近い数枚の葉は開花時に下半部が白くなる。花序は長さ 10～15cm、多数の小花を下から上に順次咲き上がる。                  区部では、湧水地や池畔、河畔等に群生する。汽水域にもよく適応した種で、東京湾岸ではもともと各所に自生していたと考えられる。多摩地域では、河川沿いの低地等に稀に生育する。湿地の改変や河川改修といった生育基盤の消滅が、本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (春季調査, 大横川親水公園                  万華池付近)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季から秋季調査まで向島百花園にて多数の植栽を確認した。                  春季調査で大横川親水公園にて 8 個体の植栽を確認した。                  秋季調査で大横川親水公園にて 10 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類 (CR)</p>	
No. 12 トモエソウ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  多年草である。茎は四稜があり、高さ 50～130cm となる。葉は披針形で、長さ 4～8cm、基部はなかば茎を抱き、多くの明点があり黒点はない。花は径 5 cm で花弁は黄色で、長さ 2.5cm、巴形を呈す。雄しべは多数ある。花柱は長さ 7mm、先はそり返る。さく果は円錐形で、長さ 13～15mm である。                  原野湿地、また植生遷移の進んでいない攪乱地や露頭、切り土斜面地等で湿り気のある場所に生育する。                  湿地の改変や植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。多年草であるが個体の寿命は比較的短く、種子繁殖による世代交代を円滑に行う必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季及び夏季調査で向島百花園にて 20 個体の植栽を確認した。                  秋季調査で向島百花園にて 5 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅 (EX)</p>	

表 4. 2-11(6) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 13 キレンゲシヨウマ	
<p><b>【生態情報】</b> 山地林内の湿った岩上または岩礫地に生える多年草である。地上茎は高さ 80~120 cmになる。葉は長さ・幅ともに 10~20 cmである。花期は 7~8 月で、花弁は狭倒卵状長円形、長さ 3~4.2 cm、ほぼ直立して花冠はラップ状である。 シカによる食害や自然遷移の進行により減少している。100 年後の絶滅確率は 84%である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b> 夏季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b> 環境省 RL: 絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	
No. 14 シロヤマブキ	
<p><b>【生態情報】</b> 中国地方の瀬戸内海側の山地に稀に生えるが、朝鮮半島・中国中部に分布する。 落葉小低木で高さは 2m 程で、束生、若枝は褐色で開出する。葉は卵形、長さ 5~10 cm、鋭い重鋸歯がある。ヤマブキと異なり、葉は対生する。花期は 4~5 月で、径 3~4 cm の白い花が新枝の先に 1 個開く。花弁と萼片は 4 枚で小苞がある。果実は核果が 4 個稔る。果皮は膜質、黒色で光沢があり、無毛である。萼片は果期まで残る。 普通は庭園に栽植される。園芸用の採取、植生の遷移が減少の主な要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 横網町公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b> 春季から秋季までに向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。 春季及び夏季で大横川親水公園にて 1 個体の植栽を確認した。 夏季調査で、東白鬚公園にて 2 個体、横網町公園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b> 環境省 RL: 絶滅危惧 IB 類 (EN)</p>	
No. 15 キハギ	
<p><b>【生態情報】</b> 本州・四国・九州に分布する。 落葉低木で、高さは 2m 以上になる。頂小葉は卵形または長楕円形で、長さ 2~4cm、幅 1~3cm である。花期は 6~9 月である。花序は長さ 2~7cm、花は長さ約 10mm で淡黄色、翼弁は紫紅色である。節果は長楕円形で、長さ 1~1.5cm である。 日当たりの良い丘陵地や低山地に生育し、東京都本土部各地の台地、南多摩の丘陵地から西多摩の山地にかけての林縁に生育する。 自生地である林縁の自然斜面の造成や整備、また植生遷移の進行等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。法面緑化資材として導入される多種のハギ類等も、本種の生育環境を圧迫している可能性がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b> 春季及び夏季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b> 東京都 RDB: 絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	

表 4. 2-11(7) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 16 マキエハギ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                      落葉低木である。茎は高さ 40～60cm である。頂小葉は長楕円形で、長さ 1～2cm である。花期は 8～9 月で、花は淡紅紫色で白色を帯び、長さ 4～5mm、短い総状花序に 2～5 個つく。閉鎖花は数個が葉腋に束生する。節果は広卵形で、ほぼ無毛、網状脈が目立ち、長さ約 4mm になる。                      丘陵地や低山地の日当たりの良い草原に生育する。                      自生地の宅地開発、踏みつけ、管理放棄による植生遷移の進行等が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季及び夏季調査で向島百花園にて植栽群生を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅 (EX)</p>	
No. 17 ミツガシロ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・九州に分布する。                      多年草である。根茎は太くて長い。茎は高さ 20～40cm となる。水面上に 3 裂する葉を広げる。葉は厚い。花期は 4～8 月であり、花は総状花序につき白色で、ろうと状で 5 中裂し、内面に毛がある。株により雄しべと雌しべの長さが異なる。さく果は球形で 2 裂する。                      低地の湿地、公園の池沼に生育する。                      水質の悪化や湿地の改変等が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季から秋季調査まで向島百花園にて多数の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類 (CR)</p>	
No. 18 アサザ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。根茎は泥の中を這う。茎は太くて長い。葉は卵形で、裏面は紫褐色を帯び、縁に波状の歯牙がある。葉柄はやや楕円形につく。花期は 6～8 月で、花は黄色、花冠は 5 裂し、径 3～4cm である。種子は扁平である。                      池沼に生育する。                      水質の悪化や湿地の改変等が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季から秋季調査まで向島百花園にて多数の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：準絶滅危惧 (NT)                      東京都 RDB：絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	

表 4. 2-11(8) 重要種の生態及び確認状況（植物）

<p>No. 19 ハナシノブ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      日本固有種で、九州（熊本県、宮崎県等）に分布する。                      山地草原に生える多年草である。茎は高さ 70～100cm になる。                      葉は下部のものは葉柄があり、羽状に全裂し、裂片は 5～11 対あり、柄はなく長さ 1.5～4cm である。上部の葉は次第に小さくなり葉柄はなく、羽片の数も小さくなる。                      花は 6～8 月で茎の上部に円錐状につき、花冠は美しい青紫色で 5 裂し、長さ 11～15mm である。                      生息地である草原での営農形態の変化に伴う維持管理の放棄が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。また、園芸価値の高さによる盗掘も見られる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      国内希少野生動植物種                      環境省 RL：絶滅危惧 IA 類（CR）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （春季調査，向島百花園）</p>
<p>No. 20 ムラサキ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。根は太く、色素を含む。高さは 40～70cm になる。                      葉は互生し無柄、粗い毛がある。花期は 6～7 月で、花は茎の先端の葉腋につく。花冠は白色、高杯状で径約 4mm である。分果は灰白色である。                      山地の乾いた草地に生育する。染料として扱われる植物である。植生遷移の進行や宅地開発等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で向島百花園にて植栽された 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧 IB 類（EN）                      東京都 RDB：絶滅（EX）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （春季調査，向島百花園）</p>
<p>No. 21 カリガネソウ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。全体に強い臭気がある。高さは 100 cm になり、葉は対生、広卵形で鋸歯がある。花期は 8～9 月で、花序は疎らな集散状である。花冠は青紫色、筒状で 5 裂し、下側 1 個は大きく、反転する。雄しべは長く突き出る。                      丘陵地の二次林内に生育する。                      植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発等が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で向島百花園にて 3 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：野生絶滅（EW）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （夏季調査，向島百花園）</p>

表 4. 2-11(9) 重要種の生態及び確認状況（植物）

No. 22 トウテイラン	
<p><b>【生態情報】</b>                      近畿地方と中国地方北部の日本海沿岸の海岸にある松林に生える多年草である。茎は直立または斜上し、高さ 50～60 cm になる。葉は対生して倒披針形、長さ 5～10 cm で、基部は細まりほとんど柄はない。花期は 8～9 月で、茎の先に穂になった花序を出して密に花をつける。花冠は青紫色で、長さは 5～6 mm である。江戸時代の園芸植物である。隠岐にはより多くの個体が比較的安定して自生していると推測されている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      向島百花園にて、春季及び夏季調査で 10 個体、秋季調査で 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	
No. 23 スズカケソウ	
<p><b>【生態情報】</b>                      岐阜県大垣市周辺にわずかに自生状態で見られ、竹林のやや日陰に生える多年草である。茎はつる状になって斜上し、長さは 2m 程になり、先端は地に接して根を出し、新株を作って繁殖する。葉は互生し、卵形で縁は三角状の尖った鋸歯があり、長さは 7～11 cm である。7 月末～8 月初めに、葉腋に球形の花序を作り、密に花をつける。花冠は濃紫色で長さ 7 mm である。江戸時代の園芸植物である。園芸用の採取、海岸開発により減少している。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧ⅠA 類（CR）</p>	
No. 24 オミナエシ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。多年草である。茎は高さ 60～100cm、地下茎は横に這い、新苗は下部の側にできる。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。花は黄色の小花で花序の上部にほぼ平らに多数つく。花期は 8～10 月で、花冠は 5 裂し、径 3～4mm になる。雄しべは 4 個ある。果実は長楕円形、やや扁平で翼状の小苞を欠く。山地の草地に生育する。植生遷移の進行、園芸目的の採取、宅地開発等が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      向島百花園にて、春季調査で 2 個体、夏季調査で 10 個体、秋季調査で 2 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅（EX）</p>	

表 4. 2-11 (10) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 25 ソバナ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。有毛品をケソバナという。茎は高さ 50～100cm で直立するが、上方は傾く。茎葉はつねに互生し、卵形または広披針形である。上部の葉は小型で柄がない。花は円錐花序につき、垂れ下がる。萼裂片は披針形で全縁である。花期は 8 月で、花冠は青紫色、漏斗状鐘形で裂片はやや反り返る。花柱は突き出ない。                      山地の明るい二次林内に生育する。                      植生遷移の進行や宅地開発等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 絶滅 (EX)</p>	
No. 26 キキョウ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                      多年草である。根茎は太く、深く地中に入る。茎は高さ 50～100cm。葉は狭卵形で先は尖り、無柄かまたはごく短い柄があり、縁に鋭鋸歯がある。裏面は短毛があつて粉白色を帯びる。花期は 7～8 月。花は茎頂近くに数個つき、花冠は径 4～5cm、柄があり、青紫色であるが、淡紫色や白色のものもある。                      山地の二次林内のやや湿った所に生育する。                      植生遷移の進行や宅地開発、園芸目的の採取等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      向島百花園にて、春季調査で 10 個体、夏季調査で 30 個体、秋季調査で 10 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)                      東京都 RDB: 絶滅 (EX)</p>	
No. 27 ノコギリソウ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州に分布する。                      多年草である。茎は叢生し、高さ 50～100 cm になる。葉は無柄で、裂片は茎を抱き、くしの歯状に中裂から深裂する。花期は 7～9 月で、頭花は茎頂に密な散房花序をつくる。舌状花は 5～7 個、白色で長さ 3.5～4.5 mm である。総苞片は 2 列に並び、外片は長楕円形で内片の半長である。果実は扁平で毛はない。                      山地の明るい草地に生育する。                      植生遷移の進行や山林の改変等による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p>	 <p>出典: レッドデータブック東京 2013～                      東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～ (平成 25 年、東京都)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で向島百花園にて 5 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 絶滅 (EX)</p>	

表 4. 2-11(11) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 28 シオン	
<p><b>【生態情報】</b>                      山地の湿草原に生える多年草である。茎は直立し、高さ1～2m、上部で枝を分けて多数の頭花を散房状につける。根出葉は花期(8～10月)に枯れるが、大きくて有翼の長柄があり、長さは65cmにも達する。葉身は長楕円形で長さ6～13cm、鋸歯縁である。茎下部の葉は長柄があり、葉身は卵形または長楕円形、長さ20～35cmになる。上部の葉は上のもの程小さく、葉身は狭長楕円形から披針形である。頭花は径3～3.5cm、総苞は半球形で長さ7mm、総苞片は3列、筒状花の花冠は長さ6～6.5mmである。                      平均減少率は約28%、100年後の絶滅確率は46%と考えられている。</p>	 <p>出典：レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(平成25年、東京都)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で向島百花園にて2個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
No. 29 ウラギク	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。越年草である。茎は無毛で、高さ25～55cmになる。葉は披針形、肉質で無毛、基部はわずかに茎を抱く。頭花はゆるい散房状につき、約2cmである。総苞片は3列、外片は披針形で鈍頭、筒状花は長さ8～9mm。瘦果は狭長楕円形で、扁平有毛。冠毛は花時には長さ5mm、果時には14～16mmに伸びる。花期は10～11月。海岸の湿地、河川河口部、湾内の埋立地に群生する。種子散布で、生育量の変動が激しい。浚渫工事や他植物との競合が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去等を行うことが望ましい。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋季調査, 旧中川河川敷)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で旧中川河川敷にて自生する20個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：準絶滅危惧(NT)                      東京都 RDB：絶滅危惧ⅠB類(EN)</p>	
No. 30 ヒゴタイ	
<p><b>【生態情報】</b>                      隔離分布が著しく、九州ではややまれ、本州では極めてまれである。やや乾いた草原に生える。茎は高さ1m内外になる。葉は長柄があり、葉身は長楕円形で羽状深裂である。花期は8～10月で、瑠璃色の花を咲かせる。頭花は集まって径5cm内外の球花となる。総苞は長さ14～21mm、花冠は長さ12～13mmである。                      草原植生の遷移が本種の減少の主要因とされている。100年後の絶滅確率は32%と考えられている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で向島百花園にて20個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	

表 4. 2-11 (12) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 31 フジバカマ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州(関東以西)・四国・九州に分布する。                      多年草である。茎は高さ1~1.5m、下部は無毛である。葉は普通3深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形である。表面は光沢があり、裏面は腺点がなく、やや硬い。花期は8~9月で、頭花は枝の先に散房状に多数つく。総苞片は約10個、5個の小花がある。瘦果は長さ3mmである。                      河原の湿った場所に生育する。                      植生遷移の進行や宅地開発等が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季から秋季調査まで向島百花園にて多数の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 準絶滅危惧 (NT)                      東京都 RDB : 情報不足 (DD)</p>	
No. 32 カセンソウ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。茎はやや多くの毛があり、高さ60~80cm、硬くて細い。葉は長楕円状披針形で、長さ5~8cm、基部は茎を抱き、洋紙質で薄いが硬く、縁には凸状の小歯牙があり、脈は目立つ。花期は7~9月で、茎の上部に数個の頭花を上向きに開く。頭花は径3.5~4cm、基部に苞葉がある。総苞片は草質で縁に密に短毛がある。日当たりの良い湿地に生育する。                      各地に記録があるものの、減少している。植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。選択的な草刈り等の管理を行うことや、シカの防護柵設置等を検討することが望ましい。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋季調査, 京島一丁目)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で京島一丁目にて70個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB : 絶滅危惧 IA 類 (CR)</p>	
No. 33 ヒメユリ	
<p><b>【生態情報】</b>                      山地に生える多年生の草本植物である。葉は多数つき、線形で長さ5~10cmである。花期は6~7月で、上向きに咲く。花被片は倒披針形で、長さ3~4cm、朱赤色で濃い色の斑点がある。                      平均減少率は51%で、100年後の絶滅確率は99%である。                      園芸用の採取、自然遷移、管理放棄が本種の生存を脅かす主な原因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で向島百花園にて2個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧 IB 類 (EN)</p>	

表 4. 2-11(13) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 34 アマドコロ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。地下茎は長く横に這う。茎は高さ 35～80cm、稜があり、斜上する。葉は長楕円形で上に反り、長さ 8～10cm、裏面は粉白色である。花期は 4～6 月で、花柄は葉腋から下垂し、白色で先端が緑色を帯びた長さ 1.5～2cm の筒形の花をつける。                      山野の日当たりの良い草地等に群生する。                      植生遷移の進行による自生地の樹林化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季から秋季調査まで向島百花園にて 5 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB : 絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	
No. 35 タイワンホトトギス	
<p><b>【生態情報】</b>                      暖地の山地自然林内の滝の崖面に生える常緑の多年草である。茎は高さ約 30 cm になり、数枚の葉をつける。葉は倒披針形で、長さは 10～20 cm である。上面に光沢があり、斑点が入る。花序は散房状である。花は淡紫色で、斑点が散生し、花被片は長さ約 2 cm である。                      都道府県別の生育情報では、沖縄県での生育が報告されている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で向島百花園にて 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧 IA 類 (CR)</p>	
No. 36 キイジョウウロウホトトギス	
<p><b>【生態情報】</b>                      ジョウウロウホトトギス (環境省 RL : VU) に似ているが、葉にはほとんど毛がなく、葉の基部の両側に耳片がある。花期は 8～10 月で、花は茎頂に 1～2 個、上部の葉腋に 1 個つく。ジョウウロウホトトギスの変種または亜種とする説もある。                      100 年後の絶滅確率は 20% 以上である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      向島百花園にて、春季調査で 8 個体、秋季調査で 1 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL : 絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	

表 4. 2-11 (14) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

<p>No. 37 キツネノカミソリ</p> <p><b>【生態情報】</b>            多年草である。鱗茎は広卵形で径 2~4 cm、外皮は黒褐色である。春は早春に出て帯状、長さ 30~40 cm、幅 8~10 mm、淡緑色で初夏に枯れる。花期は 8 月頃で、高さ 30~50 cm の花茎を立て、頂に黄赤色の 3~5 花を散形花序につける。果実は球形の蒴果で径 15 mm、よく結実する。            山野や低地の肥沃な樹林内や旧河道の草地等に群生する。自生地は広範囲に残っているが、都市域での開発や道路整備による自生地の消失、樹林の荒廃等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p> <p><b>【確認状況】</b>            夏季調査で向島百花園にて 10 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 向島百花園)</p>
<p>No. 38 ニガカシュウ</p> <p><b>【生態情報】</b>            本州(関東以西)・四国・九州・南西諸島に分布する。多年草である。地下に大型で扁球形の塊根があり、ひげ根が多い。葉は互生し、円心形で鋭尖し、径 5~13cm、長柄がある。葉腋にむかごがつく。花期は 8~9 月で、花被片は黄緑色で紫色を帯びる。雄花序、雌花序ともに下垂するが雌株はごく少ない。沿岸部の林縁や草地に生育する。河川敷という不安定な立地を生育環境としており、台風等による河川の増水による攪乱が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。増殖には、むかごによる栄養繁殖が可能である。</p> <p><b>【確認状況】</b>            春季調査で荒川河川敷にて自生する 1 個体を確認した。            秋季調査で荒川河川敷にて自生する 3 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅 (EX)</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p>No. 39 ヒオウギ</p> <p><b>【生態情報】</b>            本州(関東以西)・四国・九州・南西諸島に分布する。多年草である。葉は剣状で幅 2~4cm と広く、2 列跨状に並び、檜扇の並び方に似る。花期は 8~9 月である。花茎は高さ 60~100cm、上部で 2~3 分枝し、枝端に数個の膜質の苞がつき、その中から橙黄色で内面が暗赤色の花が 2~3 個出る。            山地の草原に生育する。観賞用に栽培される。園芸目的の採取、草地の植生遷移の進行による樹林化等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p> <p><b>【確認状況】</b>            春季及び秋季調査で向島百花園にて 5 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅 (EX)</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>

表 4. 2-11 (15) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

<p>No. 40 マコモ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                      多年草である。根茎は太く泥中を這う。茎は高さ 1~2m になる。葉は長さ 50~100cm、幅 2~3cm。葉舌は白色で膜質、長三角形で高さ 2cm に達する。花期は 8~10 月である。花序は大型の長円錐形、長さ 40~60cm、各節から 2~5 本の枝を出し、枝の上半部に雌性、下半部に雄性の小穂をつける。池沼、河川等浅水中に群生する。                      もともと区部の低地を除き分布が少なく、河川の護岸整備や水路の改修が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自然護岸や水質の保全を行うことが望ましい。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で大横川親水公園にて 30 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 大横川親水公園万華池)</p>
<p>No. 41 ショウブ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      多年草である。地下茎は太く径約 2cm、長く横に這い、節から多数発根する。植物体に芳香がある。葉は 2 列跨状に叢生し、剣状、基部は淡紅紫色、長さ 50~100cm、幅 1~2cm になる。花期は 5~7 月で、花茎は根生して直立し、高さ 25~40cm、先端に葉状苞(苞葉)をつける。花序は肉穂状で長さ 4~7cm。水辺、明るい湿地に群生する。                      水田の減少が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。谷戸田やその他の湿地を保全することが望ましい。端午の節句行事の伝統習慣の啓発も望まれる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で大横川親水公園にて 50 個体の植栽を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 大横川親水公園万華池)</p>
<p>No. 42 アオガヤツリ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      一年草である。茎は叢生し、高さ 10~25cm になる。葉は基部につき少数、幅 1~2mm、淡緑色で軟らかい。基部鞘は白味を帯びた赤紫色。苞葉は 3~4 個あり、花序より著しく長い。花期は 8~10 月。花序は白緑色で頭状、1~5 本の花序枝を持つ。小穂は披針形、長さ 3~6mm、扁平、多数花を 2 列につける。瘦果は倒卵形、長さ 0.8mm、柱頭は 2 岐。池沼のほとりや河川敷の泥湿地等に生育する。                      河川改修や沿岸部の湿地の改変等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。残存する池沼や河川湿地等の現状保全、河川環境の自然再生等により、本種の生育環境を保全・創出することが望ましい。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で、東白鬚公園と旧安田庭園にて自生する 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 旧安田庭園)</p>

表 4. 2-11 (16) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

<p>No. 43 シラン</p>	
<p><b>【生態情報】</b>                  伊豆諸島・本州(中南部)・四国・九州・南西諸島・台湾・中国に分布する。                  多年草である。偽球茎は多肉、扁平な球形で横に並ぶ。茎は高さ 30~70cm である。葉は数枚、硬い革質で毛がなく、披針形をなして、鋭く尖る。花期は 4~5 月で、紅紫色の花を 3~7 個つける。苞は長楕円状披針形、早落性で開花時にはない。萼片及び側花弁は狭長楕円形である。唇弁は花被片と同長で、くさび状倒卵形、3 裂し、中裂片は円形で縁は波状である。日当たりが良く湿り気のある斜面に生育する。                  園芸目的の採取の恐れがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取り等により管理することが望ましい。</p>	
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で、東白鬚公園にて 15 個体、向島百花園にて 10 個体、京島一丁目にて 20 個体の植栽を確認した。                  夏季調査で、東白鬚公園にて 5 個体、向島百花園にて 10 個体、横網町公園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 3 個体、京島一丁目にて 30 個体の植栽を確認した。                  秋季調査で、向島百花園にて 10 個体の植栽を確認した。</p>	<p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 横網町公園)</p>
<p><b>【指定状況】</b>                  環境省 RL : 準絶滅危惧 (NT)</p>	
<p>No. 44 エビネ</p>	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道(西南部)・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                  多年草である。地下に連なった偽球茎があり、形がエビに似ている。葉は冬季も残り、長さ 15~25cm の長楕円形、数本の縦ひだがある。花期は 4~5 月で、花茎は高さ 20~40cm、茎の上半部に 10~15 花をつける。花被片が紫褐色で唇弁が淡紅色のもの、花被片が淡緑色で唇弁が白色のもの等変化に富む。                  台地から丘陵地、山地までの落葉から常緑樹林内、竹林内等林床に生育する。                  かつては珍しい植物ではなかったが、開発による生育環境の変化、園芸目的の採取圧の強まりが本種の生存を脅かす要因となり、身近な植物とはいえなくなってしまった。</p>	
<p><b>【確認状況】</b>                  春季から秋季調査までに向島百花園にて各時期 15 個体の植栽を確認した。</p>	<p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【指定状況】</b>                  環境省 RL : 準絶滅危惧 (NT)                  東京都 RDB : 絶滅危惧 II 類 (VU)</p>	

表 4. 2-11(17) 重要種の生態及び確認状況 (植物)

No. 45 クマガイソウ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道(西南部)・本州・四国・九州に分布する。                  多年草である。茎は有毛で高さ 20~40cm。葉は茎頂に 2 枚対生状につき、扇円形で径 10~20cm、放射状に多数の脈が走り、折りしわが顕著である。花期は 4~5 月で、茎頂に 1 個、径 10cm 前後と大型の花を横向きに開く。特に紅紫色の脈がある大きな袋状の唇弁が特徴である。                  山野の樹林内に群生する。植林地や竹林等の里山の林床を主な自生地とする植物である。                  植生遷移の進行や雑木林をはじめとした山林の改変、園芸目的の採取等が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で向島百花園にて 8 個体の植栽を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)                  東京都 RDB : 絶滅 (EX)</p>	

注 1) 「カンアオイ属」は属どまりであるため、記載しなかった。

出典: 「レッドデータブック東京 2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~」

(平成 25 年、東京都)

「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について」

(平成 30 年、環境省)

「一般財団法人国民公園協会 新宿御苑 新宿御苑の希少植物

<http://fng.or.jp/shinjuku/place/archives/kisyousyu/taiwanhototogisu.html>」

(一般財団法人国民公園協会 新宿御苑)

「日本の野生植物 木本 I」

(昭和 64 年、下中弘、平凡社)

#### 4) 外来種の確認状況

植物の外来種として 27 科 71 種が確認された。確認種は表 4. 2-12 に示したとおりである。確認種のうちアレチウリ、ミズヒマワリ、オオキンケイギクは特定外来生物に指定されている。特定外来生物の確認状況は、表 4. 2-13 に示すとおりである。

表 4. 2-12(1) 外来種の選定結果 (植物)

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種		
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	
1	タデ	ヒメツルソバ		●							●		総合/その他
2		ナガバギシギシ		●		●				●			総合/その他
3		エゾノギシギシ	●	●					●	●			総合/その他
4	ナデシコ	ムシトリナデシコ	●	●	●								総合/その他
5	アカザ	ホコガタアカザ								●			総合/その他
6	メギ	ヒイラギナンテン		●	●	●	●	●	●		●		総合/その他
7	スイレン	Nymphaea 属							●				総合/重点
8	マタタビ	キウイフルーツ									●		産業
9	バラ	ビワ	●			●		●			●		産業
10		タチバナモドキ				●							総合/その他
11		カザンデマリ		●							●		総合/その他
-		Pyracantha 属	●						●				総合/その他
12	マメ	アレチヌスビトハギ	●		●		●						総合/その他
13		ハリエンジュ				●	●	●			●		産業
14	トウダイグサ	ナンキンハゼ							●				総合/その他
15	アオイ	フヨウ		●	●				●	●			総合/その他
16	ウリ	アレチウリ	●									特	総合/緊急
17	アカバナ	コマツヨイグサ	●	●			●	●	●	●			総合/重点
18	モクセイ	トウネズミモチ	●	●	●	●	●	●	●	●			総合/重点
19	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ									●		総合/重点
20	ヒルガオ	マルバルコウ	●		●				●	●	●		総合/重点
21		アメリカアサガオ									●		総合/重点
22		マルバアメリカアサガオ		●									総合/重点
23		ノアサガオ		●							●		総合/重点
24		マメアサガオ	●										総合/重点
25		アサガオ		●		●			●				総合/重点
26	クマツヅラ	シチヘンゲ					●	●		●			総合/重点
27		アレチハナガサ	●							●			総合/その他
28	ナス	ケチョウセンアサガオ		●									総合/その他
29	フジウツギ	フサフジウツギ		●									総合/重点
30	キク	ムラサキカッコウ		●					●				総合/その他
31		アザミ	●							●			総合/重点

表 4. 2-12(2) 外来種の選定結果 (植物)

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種	
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②
32	キク	アメリカセンダングサ	●		●	●	●		●			総合/その他
33		フランスギク								●		総合/その他
34		キク		●	●				●			総合/その他
35		アメリカオニアザミ		●	●		●			●		総合/その他
36		オオキンケイギク							●		特	総合/緊急
37		ミズヒマワリ						●			特	総合/緊急
38		セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●	●	●	●		総合/重点
39		ヒメジョオン	●	●	●	●	●	●	●	●		総合/その他
40		アカミタンポポ	●	●	●			●	●	●		総合/重点
41		セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●	●	●			総合/重点
42		オオオナモミ	●									総合/その他
43		ユリ	タカサゴユリ		●	●						
44	シンテッポウユリ			●	●							総合/その他
45	アツバキミガヨラン					●	●	●		●		総合/重点
46	ミズアオイ	ホテイアオイ						●			総合/重点	
47	アヤメ	キショウブ	●					●	●			総合/重点
48		ヒメヒオウギズイセン		●	●	●	●	●		●		総合/その他
49	ツユクサ	ノハカタカラクサ				●	●	●		●		総合/重点
50	イネ	メリケンカルカヤ	●				●			●		総合/その他
51		シロガネヨシ								●		総合/その他
52		カモガヤ	●									産業
53		シナダレスズメガヤ	●	●								総合/重点
54		オニウシノケグサ	●	●					●			産業
55		ネズミムギ	●	●		●		●	●			産業
56		ホソムギ	●	●								産業
57		オオクサキビ	●									総合/その他
58		シマスズメノヒエ	●	●		●		●	●			総合/その他
59		キシユウスズメノヒエ	●	●								総合/その他
60		アメリカスズメノヒエ		●								産業
61		タチスズメノヒエ	●									総合/その他
62		オオアワガエリ		●								産業
63		マダケ			●		●	●		●		産業
64		ハチク								●		産業
65		モウソウチク			●			●				産業
66		セイバンモロコシ	●	●					●			総合/その他
67	ナギナタガヤ	●	●					●			産業	

表 4. 2-12(3) 外来種の選定結果 (植物)

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種	
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②
68	ヤシ	シュロ				●	●	●		●		総合/その他
69		トウジュロ			●		●	●				総合/その他
70	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	●	●		●	●					総合/重点
71	ショウガ	ハナシュクシャ		●	●							総合/その他
計	27 科	71 種	32 種	36 種	20 種	18 種	19 種	32 種	20 種	26 種	3 種	71 種

注 1 : 1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注 2 : 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (平成 29 年 10 月 12 日更新)」(平成 29 年、国土交通省) に準拠した。

注 3 : 外来種選定基準

① 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号) による指定種  
特 : 特定外来種

② 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト) (平成 27 年、環境省・農林水産省) による指定種

1) 由来

国内由来の外来種 (自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種) と国外由来の外来種があるが、本調査にて確認された外来種は全て国外由来であったため、記載を省略した。

2) カテゴリ

**総合対策外来種** : 国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。総合対策は更に下記のとおり 3 区分される。

緊急 : 「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

重点 : 「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

その他 : 上記以外総合対策外来種。

《被害の深刻度に関する基準》

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす。  
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

**産業管理外来種** : 産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。

注 4 : 種数は、科や属どまりの生物は同科又は同属の生物が他に確認されていない場合、数えるものとする。

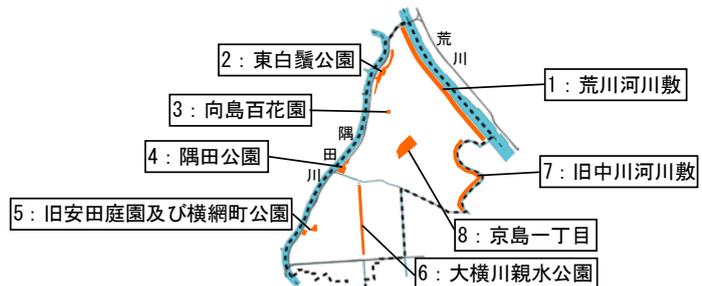


表 4. 2-13(1) 特定外来生物の生態及び確認状況 (植物)

No.1 アレチウリ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北アメリカ原産の一年草である。                  茎はつるで粗い毛を密生し、巻きひげで他物に巻き付いて数 m に達する。葉は広心臓形、両面著しくざらつき 5~7 浅裂、長い葉柄があって互生する。夏から秋にかけて葉腋に雌雄別の花序を出し、直径 1 cm ほどの黄白色の花をつける。果実は長さ 1 cm ほどの楕円形で長い刺が密生する。                  1952 年に静岡県で見出され、現在では東北以南に普通に見られる。河川敷等に大群落をつくる他、飼料作物の畑等に発生して問題になっている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で荒川河川敷にて 2×2m、5×5m の群生を確認した。                  秋季調査で荒川河川敷にて 5×8m、5×15m の群生を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  外来生物法で特定外来生物に指定</p>	
No.2 オオキンケイギク	
<p><b>【生態情報】</b>                  北アメリカ原産の多年草である。                  茎は束生して高さ 30~70 cm、根生葉は長い柄があり 3~5 小葉に分裂する。両面とも粗い毛がある。頭状花は直径 5~7 cm、舌状花は橙黄色で花冠の先は歯状の刻みがある。筒状花も同じ色で花床に細長い鱗片がある。果実は扁平。暗褐色で光沢を欠き、半透明の薄いひれに取り巻かれる。花期は初夏である。路傍、河川敷、線路際等の荒地、海岸に生育する。明治中期 (1880 年代) に導入、栽培されたものが、広く野生化して河川敷や道路沿い等到大群落をつくる。在来草本植物との競合が懸念されている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 旧中川河川敷)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で旧中川河川敷にて 10 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  外来生物法で特定外来生物に指定</p>	

表 4. 2-13(2) 特定外来生物の生態及び確認状況（植物）

No. 3 ミズヒマワリ	
<p><b>【生態情報】</b>                      中央・南アメリカ原産の多年草である。                      抽水植物で、高さ 0.5～2m になる。葉は対生し、披針形～卵形、鋭尖頭、基部は楔形～やや円形である。水中葉では鋸歯は目立たないが、水上葉には低い鋸歯である。花期は 8～10 月で、両性花、白い花をつける。栄養繁殖が極めて旺盛で、ちぎれた茎の節から根を出して短期間で生長する。水路、河川等の水辺に生育する。                      1995 年に愛知県で侵入・定着が確認された。在来水生植物との競合や水路の水流阻害を引き起こし問題になっている。除去の際は、わずかな部位からクローン成長するため、千切れないように慎重に引き抜いて除去するか底の土壌を深く掘り取りする必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 大横川親水公園万華池                      付近)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で大横川親水公園にて 13 個体を確認した。                      秋季調査で大横川親水公園にて 4×2m の群生を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      外来生物法で特定外来生物に指定</p>	

出典：「侵入生物データベース」<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>  
 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

## 2.6.2 両生類・爬虫類・哺乳類

### 1) 確認種

現地調査により、2科2種の両生類、5科5種の爬虫類、3科3種の哺乳類を確認した。確認種の一覧は、表4. 2-14及び巻末資料に示すとおりである。

両生類は、都市公園や自然林、農耕地等、幅広い環境に生息するアズマヒキガエルが多く確認された。爬虫類は、池のある調査対象地区ではミシシippアカミミガメが多く確認された。また、ニホンヤモリは公園や住宅地等で多く確認された。

哺乳類は、都市環境にも適応しているドブネズミ、アライグマ、タヌキが確認された。

表4. 2-14 確認種一覧（両生類・爬虫類・哺乳類）

No.	綱名	目名	科名	種名	学名
1	両生	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>
2			アカガエル	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>
3	爬虫	カメ	イシガメ	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>
4			ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>
5		有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>
6	カナヘビ		ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	
7	ナミヘビ		アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	
8	哺乳	ネズミ	ネズミ	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>
9		ネコ	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>
10			イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
合計	両生類	1目	2科	2種	
	爬虫類	2目	5科	5種	
	哺乳類	2目	3科	3種	

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の両生類・爬虫類・哺乳類の確認種と確認状況を表 4. 2-15 に示す。

両生類は、アズマヒキガエルが荒川河川敷、京島一丁目を除いた地区で確認され、主に公園に造成された樹林を利用していた。また、大横川親水公園ではウシガエルが確認された。爬虫類は、広い草地環境を有する荒川河川敷でアオダイショウが確認された。また、池のある向島百花園や隅田公園等の調査対象地区では、クサガメやミシシippアカミミガメが確認された。ニホンヤモリは、公園や民間の植栽、コンクリート壁等の利用が確認され、ほぼすべての調査対象地区で確認された。

哺乳類は、荒川河川敷を主として、ドブネズミ、アライグマ、タヌキが確認された。これらの種は都市環境への適応が知られており、移動経路等として荒川河川敷を利用しているほか、市街地や公園も利用している可能性が考えられる。

表 4. 2-15(1) 調査対象地区別の確認状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	確認種・確認状況
1	荒川河川敷	0 科 0 種 (両生類) 2 科 2 種 (爬虫類) 3 科 3 種 (哺乳類)	樹林 草地 グラウンド 河川 (水辺)	両生類：確認なし 爬虫類：草地でニホンカナヘビ、アオダイショウを確認した。 哺乳類：草地に設置したトラップでドブネズミを捕獲及び死体を確認した。護岸でアライグマ、高架下及び河川の水際でタヌキの足跡を確認した。
2	東白鬚公園	1 科 1 種 (両生類) 2 科 2 種 (爬虫類) 0 科 0 種 (哺乳類)	樹林 草地 池 (防災貯水池)	両生類：樹林内の朽木でアズマヒキガエルを確認した。 爬虫類：歩道沿いの植栽でニホンカナヘビ、樹林内でニホンヤモリを確認した。 哺乳類：確認なし
3	向島百花園	1 科 1 種 (両生類) 3 科 3 種 (爬虫類) 1 科 1 種 (哺乳類)	樹林 草地 池	両生類：池の水際の石積み、管理用具の収納場所でアズマヒキガエルを確認した。 爬虫類：池の中でクサガメ、管理用具の収納場所や小屋の脇でニホンヤモリ、樹林下の落ち葉堆積地でニホンカナヘビを確認した。 哺乳類：園の外周を囲う柵脇でタヌキのため糞を確認した。
4	隅田公園	1 科 1 種 (両生類) 3 科 3 種 (爬虫類) 0 科 0 種 (哺乳類)	樹林 草地 池	両生類：樹林内の朽木でアズマヒキガエルを確認した。 爬虫類：池で遊泳や甲羅を干すクサガメ、ミシシippアカミミガメを確認した。コンクリート壁の割れ目や樹幹の窪みでニホンヤモリを確認した。 哺乳類：確認なし

表 4. 2-15(2) 調査対象地区別の確認状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	確認種・確認状況
5	旧安田庭園及び横網町公園	1科1種（両生類） 3科3種（爬虫類） 0科0種（哺乳類）	樹林 草地 池	両生類：樹林下の落ち葉堆積地や朽木でアズマヒキガエルを確認した。 爬虫類：池で遊泳や甲羅を干すクサガメ、ミシシippアカミミガメを確認した。石積みの隙間でニホンヤモリを確認した。 哺乳類：確認なし
6	大横川親水公園	2科2種（両生類） 1科1種（爬虫類） 0科0種（哺乳類）	樹林 草地 池・水路	両生類：橋脚下やポンプのハンドル口でアズマヒキガエル、万華池内や池の水際の草地でウシガエルを確認した。 爬虫類：石積みの隙間でニホンヤモリを確認した。 哺乳類：確認なし
7	旧中川河川敷	1科1種（両生類） 2科2種（爬虫類） 0科0種（哺乳類）	草地 河川(水辺)	両生類：草地でアズマヒキガエルの死体を確認した。 爬虫類：コンクリート壁の排水口でニホンヤモリの個体と卵、堤防法面の草地でニホンカナヘビを確認した。 哺乳類：確認なし
8	京島一丁目	0科0種（両生類） 1科1種（爬虫類） 0科0種（哺乳類）	住宅地 広場	両生類：確認なし 爬虫類：コンクリート壁の隙間や住居脇の植栽木でニホンヤモリを確認した。 哺乳類：確認なし

### 3) 重要種の確認状況

両生類の重要種として1科1種、爬虫類の重要種として4科4種が確認された。確認種は、表4. 2-16に示すとおりである。なお、哺乳類の重要種は、確認されなかった。

また、確認種の生態及び確認状況は、表4. 2-17に示すとおりである。

表4. 2-16 重要種の選定結果（両生類・爬虫類・哺乳類）

No.	綱名	目名	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種				
					1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	③	④	
1	両生	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル		●	●	●	●	●	●						NT
2	爬虫	カメ	イシガメ	クサガメ			●	●	●								DD <sup>注4)</sup>
3		有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		●	●	●	●	●	●	●					VU
4			カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●					●					VU
5			ナミヘビ	アオダイショウ	●												NT
計	2綱	3目	5科	5種	2種	3種	4種	3種	3種	2種	3種	1種	0種	0種	0種	5種	

注1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3：重要種選定基準

①文化財保護法(昭和25年 法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2018の公表について(平成30年、環境省)における選定種  
EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，CR+EN：絶滅危惧I類，  
VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～(平成25年、東京都)における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，CR+EN：絶滅危惧I類，  
VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，留：留意種

注4：本州・四国・九州のクサガメはかつて自然分布と考えられていたが、18世紀末に朝鮮半島や中国から移入されたと示唆されている（侵入生物データベース，国立研究開発法人 国立環境研究所）。

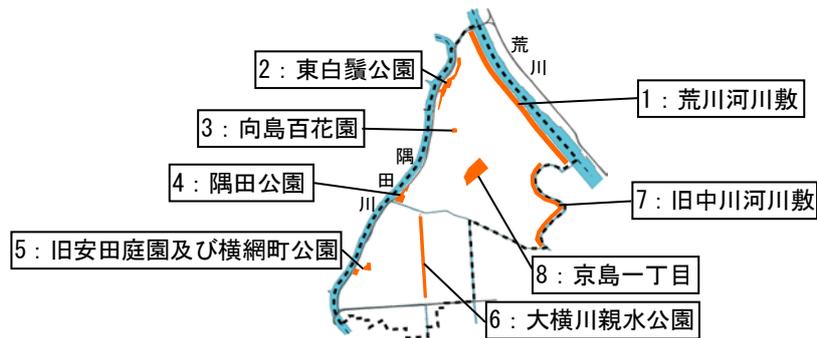


表 4. 2-17(1) 重要種の生態及び確認状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

No. 1 アズマヒキガエル	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州（東海以北及び近畿の日本海側の一部）に分布する。                  体長は4～16 cmで、日本産のカエルの中では大型である。体色は灰暗色から茶褐色を帯びる。四肢は比較的短く、指端に吸盤を持たない。後肢趾間に発達した悪いみずかき、鼓膜上後部に発達した耳腺を持つ。背面や側面には大小様々な隆起が見られる。成体は昆虫類やミミズ類等を食べ、区部の都市公園や人家の緑地から山間地まで広く生息している。                  区部では緑地や水辺の減少により個体数が減少している。また、移入された亜種ニホンヒキガエルとの交雑が懸念されている。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で、東白鬚公園にて1個体、向島百花園にて1個体、隅田公園にて1個体、旧安田庭園及び横網町公園にて5個体、大横川親水公園にて1個体、旧中川河川敷にて死体を確認した。                  秋季調査で、東白鬚公園にて2個体、向島百花園にて1個体、旧安田庭園及び横網町公園にて7個体、大横川親水公園にて1個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：準絶滅危惧（NT）</p>	
No. 2 クサガメ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州・四国・九州に分布する。                  最大甲長は雄で20 cm、雌で30 cm程度である。背甲に3本の発達したうね（キール）が走り、通常各甲板は黄緑色の縁取りがある。雄は成長すると全身黒色になり、ニホンイシガメ等と間違いやすい。危険を感じると四肢の付け根の臭腺から嫌な臭いを出す。主に平地の河川や池沼、水田や隣接した小川に生息する。魚の死体や貝類、甲殻類等肉食傾向の強い雑食性である。                  現在は移入種との見解が主流である。通常の生息地である水辺以外にも産卵場所、幼亀が過ごす水域、採餌場等本種の存続にはかなりの広い面積と多様な環境を必要とするため、保全に際しては十分考慮する必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (春季調査, 旧安田庭園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で、向島百花園にて2個体、隅田公園にて2個体、旧安田庭園にて7個体を確認した。                  秋季調査にて、旧安田庭園及び横網町公園にて1個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：情報不足（DD）</p>	

表 4. 2-17 (2) 重要種の生態及び確認状況 (両生類・爬虫類・哺乳類)

No. 3 ニホンヤモリ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州・四国・九州に分布する。                  全長 10～14 cm 程度である。体色は淡い灰色に暗褐色の斑紋があるが、温度等により大きく変わる。体は平たく指先が扁平で壁を垂直に登ることができ、天井等も素早く動く。尾は自切する。瞼がなく目を閉じることがない。                  人間と上手く共存している種であり、主に民家や寺院、その周辺に見られる。夜行性でガ類等の昆虫類、クモ類を食べる。                  古い時代からの移入種だが、急速な都市化によって気密性の高い建築物が増加し、すみかとなっていた古い家屋が減少することによって本種の生息環境が悪化する可能性がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で、向島百花園にて 2 個体、隅田公園にて 3 個体、旧安田庭園及び横網町公園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 3 個体、京島一丁目にて 1 個体を確認した。                  秋季調査で、東白鬚公園にて 1 個体、向島百花園にて 1 個体、隅田公園にて 8 個体、大横川親水公園にて 2 個体、旧中川河川敷にて 21 個体、京島一丁目にて 2 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 4 ニホンカナヘビ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  全長 16～27 cm 程度である。尾が長く全長の 3 分の 2 強ある。体色は背面が褐色、腹面は白または黄色である。体側に白と暗褐色の縞が走る。背面の鱗にはうね (キール) があり、ザラザラしている。尾部は自切する。幼体の体色は全体的に暗く、特に尾部は顕著である。                  市街地から低山地まで広く生息し、日当たりの良い草地や石垣等がある環境を好む。昼行性で昆虫類やクモ類、陸生甲殻類等を捕食する肉食性である。                  以前は区部を含め各地域で普通に見られたが、都市化が進み空き地や藪が減少するにつれて、越冬や産卵する場所が喪失して個体数の減少が目立つようになった。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 東白鬚公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で、東白鬚公園にて 4 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。                  秋季調査で、荒川河川敷にて 3 個体、東白鬚公園にて 2 個体、向島百花園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	

表 4. 2-17 (3) 重要種の生態及び確認状況 (両生類・爬虫類・哺乳類)

No. 5 アオダイショウ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  全長 110～190 cm 程度で、本土最大のヘビである。体色は褐色からオリーブ色と個体差が大きい。背面に黒色や暗褐色の不明瞭な 4 本の縞が走る。幼蛇ははしご状の斑紋が並び、マムシと類似している。樹上性傾向があり、立体的な運動能力が非常に高いが地上でも活発に活動する。                  平地から産地の民家周辺まで様々な環境に見られ、人間と上手く共存している種である。成蛇は主にネズミ類と鳥類を捕食する。一方、幼蛇はカエル類、トカゲ類、ヤモリ類を好食する。急速な都市化により、本種がこれまで主に生息場所としてきた建築物の構造が大きく変化したため、個体数が減少していると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 荒川河川敷北部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	

出典：「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～」  
 (平成 25 年、東京都)

#### 4) 外来種の確認状況

両生類の外来種として1科1種、爬虫類の外来種として1科1種、哺乳類の外来種として2科2種が確認された。確認種は表4. 2-18に示すとおりである。

確認された外来種のうち、ウシガエルとアライグマは、特定外来生物に指定されている。特定外来生物の生態及び確認状況は表4. 2-19に示すとおりである。

表4. 2-18 外来種の選定結果（両生類・爬虫類・哺乳類）

No.	綱名	目名	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種		
					1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	
1	両生	無尾	アカガエル	ウシガエル						●				特	総合/重点
2	爬虫	カメ	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ				●	●						総合/緊急
3	哺乳	ネズミ	ネズミ	ドブネズミ	●										総合/重点
4		ネコ	アライグマ	アライグマ	●									特	総合/緊急
計	3綱	4目	4科	4種	2種	0種	0種	1種	1種	1種	0種	0種	2種	4種	

注1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目  
 注2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3：外来種選定基準

- ① 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）による指定種  
 特：特定外来種
- ② 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成27年、環境省・農林水産省）による指定種

##### 1) 由来

国内由来の外来種（自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種）と国外由来の外来種があるが、本調査にて確認された外来種は全て国外由来であったため、記載を省略した。

##### 2) カテゴリ

**総合対策外来種**：国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。総合対策は更に下記のとおり3区分される。

**緊急**：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

**重点**：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

**その他**：上記以外総合対策外来種。

《被害の深刻度に関する基準》

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす。  
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

**産業管理外来種**：産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理

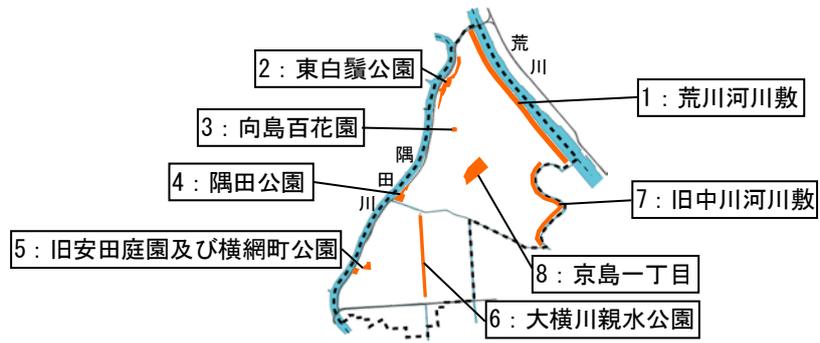


表 4. 2-19 特定外来生物の生態及び確認状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

No. 1 ウシガエル	
<p><b>【生態情報】</b>                  アメリカ合衆国東部と中部・カナダ南東部に分布する。                  体長は 111～183mm と大型で、みずかきが良く発達する。鼓膜は明瞭で、直径は眼の 0.9～1.7 倍と大きい。夜行性で、昼間は水草の中や水場周辺の茂みや窪地に隠れる。池等の止水で雄は繁殖なわばりを持ち、水面に浮かしながら「ウオー、ウオー」と鳴く。雌は水草の多い所で産卵し、卵塊は 50×50cm 程度のシート状になって浮かぶ。オタマジャクシは越冬し、15cm ほどに達する。幼生越冬することから 1 年を通して水のある場所で繁殖し、産卵数は 6,000～40,000 個である。肉食性で、昆虫、アメリカザリガニ、他のカエル類、魚類や小型哺乳類や小鳥を襲うこともある。個体を取り除く方法が現実的である。成体は警戒心が強く捕獲しにくい、夜間の方が効率よく捕獲できる。変態までに約 1 年を要するため、繁殖期が終わってから翌春までの間に池の干し上げを行って幼生を全滅させる方法もある。</p>	 <p>現地調査での確認個体                  (秋季調査, 大横川親水公園                  万華池)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で大横川親水公園にて 10 個体を確認した。                  秋季調査で大横川親水公園にて 5 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  外来生物法で特定外来生物に指定</p>	
No. 2 アライグマ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北米から中米（カナダ南部からパナマ）に分布する。                  毛色は灰色から明るい茶褐色で尾に黒い輪が 4～10 本あり、目を覆うような黒い帯がある。頭胴長 40～60cm、尾長 20～40cm、体重 4～10kg（稀に 20kg）である。雄は雌よりやや大型である。蹠行性（爪先から踵まで地面につける）ため、足跡が他の哺乳類と異なる。夜行性で、木登り・泳ぎも得意である。普段は単独性で、繁殖期のみペアを形成し、なわばりは持たない。休眠により越冬する。雑食性で臼歯が上下とも 2 対ある。                  日本各地で飼育個体の放逐・逸出により野生化し、分布が拡大している。在来中型哺乳類との競合、鳥類への営巣妨害・営巣放棄、野生生物の捕食、食性や営巣場所の競合、農業被害、建造物への侵入・損壊、人獣共通の感染症を媒介する等の影響が問題視されている。</p>	 <p>現地調査でのフィールドサイン                  (秋季調査, 荒川河川敷北部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  秋季調査で荒川河川敷にて足跡を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  外来生物法で特定外来生物に指定</p>	

出典：「侵入生物データベース」<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>  
 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

## 2.6.3 鳥類

### 1) 確認種

現地調査により、30科54種の鳥類を確認した。確認種の一覧は、表4. 2-20及び巻末資料に示すとおりである。

調査対象地区のうち、荒川河川敷と旧中川河川敷は河川や水際植生等を利用するカワウやカモ類等の水鳥が確認された。また、河川敷の草地ではヒバリやムクドリ等も確認されたほか、ヨシ群落ではオオヨシキリ等が確認された。

公園の樹林では、オナガやシジュウカラ等の樹林性の鳥類が主に確認された。ドバトやスズメは市街地や樹林地を含む比較的幅広い環境で確認された。

また、生態系の上位種であるトビ、ツミ、チョウゲンボウも確認された。

表4. 2-20 (1) 確認種一覧(鳥類)

No.	目名	科名	種名	学名
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>
2			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>
3	ペリカン	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>
4	コウノトリ	サギ	ダイサギ	<i>Egretta alba</i>
5			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>
6			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>
7	カモ	カモ	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>
8			カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>
9			コガモ	<i>Anas crecca</i>
10			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>
11			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>
12			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>
13			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>
14			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>
15	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>
16			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>
17		ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>
18	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>
19			オオバン	<i>Fulica atra</i>
20	チドリ	シギ	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>
21			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>
22		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>
23		ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>
24		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>
25			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>
26			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>
27	ハト	ハト	ドバト	<i>Columba livia var. domesticus</i>
28			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>
29	カッコウ	カッコウ	カッコウ科	Cuculidae sp.

表 4. 2-20 (2) 確認種一覧 (鳥類)

No.	目名	科名	種名	学名	
30	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	<i>Apus affinis</i>	
31	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	
32	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	
33		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	
34		セキレイ	ハクセキレイ		<i>Motacilla alba</i>
35			タヒバリ		<i>Anthus spinoletta</i>
36		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	
37		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	
38		ツグミ	ジョウビタキ		<i>Phoenicurus auroreus</i>
39			イソヒヨドリ		<i>Monticola solitarius</i>
40			ツグミ		<i>Turdus naumanni</i>
41		ウグイス	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>
42			オオヨシキリ		<i>Acrocephalus arundinaceus</i>
43		ヒタキ	キビタキ		<i>Ficedula narcissina</i>
44			オオルリ		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>
45		シジュウカラ	シジュウカラ		<i>Parus major</i>
46		メジロ	メジロ		<i>Zosterops japonicus</i>
47		ホオジロ	アオジ		<i>Emberiza spodocephala</i>
48			オオジュリン		<i>Emberiza schoeniclus</i>
49		アトリ	カラヒワ		<i>Carduelis sinica</i>
50		ハタオリドリ	スズメ		<i>Passer montanus</i>
51		ムクドリ	ムクドリ		<i>Sturnus cineraceus</i>
52		カラス	オナガ		<i>Cyanopica cyana</i>
53			ハシボソガラス		<i>Corvus corone</i>
54			ハシブトガラス		<i>Corvus macrorhynchos</i>
計	12 目	30 科		54 種	

注1: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (平成 29 年 10 月 12 日更新)」(平成 29 年、国土交通省) に準拠した。

注2: 種まで同定できなかった生物については、科名又は属名で記載した。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の鳥類の確認種と確認状況を表 4. 2-21 に示す。

調査対象地区のうち、荒川河川敷及び旧中川河川敷では、河川や水際植生等を利用するカイツブリやダイサギ、カルガモ等の水鳥が多く確認された。また、河川敷の草地ではヒバリやムクドリ等も確認されたほか、ヨシ群落ではオオヨシキリ等が確認された。

向島百花園や東白鬚公園等の樹林地が多くを占める調査対象地区では、ジョウビタキやシジュウカラ、メジロ等の樹林性の種、京島一丁目の市街地ではドバトやスズメが確認された。また、向島百花園、隅田公園の池ではカワセミ等が確認された。

表 4. 2-21 調査対象地区別の確認状況（鳥類）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	主要な確認種と確認状況
1	荒川河川敷	24 科 42 種	樹林 草地 グラウンド 河川（水辺）	樹林でヒヨドリ、シジュウカラを確認した。 堤防法面の草地やグラウンドでドバト、ムクドリ、スズメを確認した。草地上空を飛行するツバメを確認した。 河川の水面や水際でカンムリカイツブリ、カルガモ、ダイサギ、セイタカシギを確認した。
2	東白鬚公園	15 科 18 種	樹林 草地	樹林でオナガ、ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメを確認した。 草地やアスファルト舗装面でドバト、ハクセキレイを確認した。 上空を飛行するツバメ、ヒメアマツバメ、ツミを確認した。
3	向島百花園	14 科 16 種	樹林 草地 池	樹林でメジロ、ヒヨドリ、キビタキを確認した。 草地や樹林でドバト、キジバト、スズメを確認した。 池付近の木に留まっていたカワセミを確認した。
4	隅田公園	17 科 21 種	樹林 草地 池	樹林でヒヨドリ、オナガ、シジュウカラを確認した。 草地や舗装面でドバト、スズメを確認した。 池でアオサギ、コサギ、カルガモを確認した。
5	旧安田庭園及び横網町公園	11 科 12 種	樹林 草地 池	樹林でシジュウカラ、メジロ、ツグミを確認した。 草地やアスファルト舗装面でドバト、スズメを確認した。 池でカルガモを確認した。
6	大横川親水公園	16 科 22 種	樹林 草地 池・水路	樹林でヒヨドリ、シジュウカラ、オナガを確認した。 草地や歩道でドバト、ハクセキレイ、スズメを確認した。 池及び水路でカルガモ、アオサギ、コサギを確認した。
7	旧中川河川敷	21 科 31 種	草地 河川（水辺）	堤防法面の草地でドバト、ムクドリ、スズメを確認した。 河川水際の高茎草地でオオヨシキリを確認した。 河川水面や河川内の杭上でカイツブリ、カワウ、カルガモ、アオサギ、コサギを確認した。
8	京島一丁目	6 科 7 種	住宅地 広場	住宅地の植栽でスズメ、ヒヨドリを確認した。 公園の広場や植栽、アスファルト上でドバト、キジバト、ハシブトガラス、ハクセキレイを確認した。

### 3) 重要種の確認状況

鳥類の重要種として 15 科 20 種が確認された。確認種は表 4. 2-22 に示すとおりである。  
また、確認種の生態及び確認状況は、表 4. 2-23 に示すとおりである。

表 4. 2-22 重要種の選定結果（鳥類）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種			
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	③	④
1	カイツブリ	カイツブリ							●					NT
2		カンムリカイツブリ	●											留
3	サギ	ダイサギ	●							●				VU
4		コサギ	●			●		●	●					VU
5	タカ	トビ						●						NT
6		ツミ		●	●					●				CR
7	ハヤブサ	チョウゲンボウ								●				EN
8	クイナ	バン								●				VU
9		オオバン	●							●				VU
10	シギ	イソシギ	●							●				VU
11		チュウシャクシギ	●											VU
12	セイタカシギ	セイタカシギ	●										VU	EN
13	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	●											NT
14	アマツバメ	ヒメアマツバメ		●										VU
15	カワセミ	カワセミ			●	●								VU
16	ヒバリ	ヒバリ	●											VU
17	モズ	モズ	●											VU
18	ツグミ	イソヒヨドリ	●											DD
19	ウグイス	オオヨシキリ	●							●				VU
20	ホオジロ	オオジュリン	●							●				NT
計	15 科	20 種	13 種	2 種	2 種	2 種	0 種	2 種	10 種	0 種	0 種	0 種	1 種	20 種

注 1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注 2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 29 年 10 月 12 日更新）」（平成 29 年、国土交通省）に準拠した。

注 3：重要種選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について（平成 30 年、環境省）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，CR+EN：絶滅危惧 I 類，

VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京 2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（平成 25 年、東京都）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，CR+EN：絶滅危惧 I 類，

VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，留：留意種

### 4) 外来種の確認状況

鳥類では確認されていない。



表 4. 2-23(1) 重要種の生態及び確認状況（鳥類）

No.1 カイツブリ	
<p>【生態情報】</p> <p>北海道では夏鳥、本州・四国・九州・南西諸島では留鳥である。体長 26cm、日本産のカイツブリ科では最小で、翼・尾が短い。池、湖沼、河川等に生息し、主に開けた水面周辺の水草やヨシに水草を積み重ねて巣を作る。水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類等を食べる。</p> <p>水生植物の減少による営巣環境の減少、ブラックバスの増加や水質悪化等による食物となる小魚等の減少、人・犬・ミシシippアカミミガメ等による繁殖活動の攪乱等により、繁殖個体が減少している。水生植物の保全や食物資源の回復、営巣が確認された場所では、必要に応じて観察者等への注意喚起を行うことが望ましい。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (冬季, 旧中川河川敷)</p>
<p>【確認状況】</p> <p>冬季調査で旧中川河川敷にて 2 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】</p> <p>東京都 RDB：準絶滅危惧（NT）</p>	
No.2 カンムリカイツブリ	
<p>【生態情報】</p> <p>本州・四国・九州では冬鳥、本州の一部(青森、秋田、琵琶湖等)では繁殖する。</p> <p>体長 56cm、日本産カイツブリ科では最大で、首は特に長く白色で、嘴はピンク色。湖沼、池、河川、河口、海岸等の広い水域に生息する。水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類等を食べる。</p> <p>海域での船舶の航行や、河川敷や湖岸での人・犬の通行が、生息場所の攪乱要因となっている可能性がある。必要に応じて生息場所への人・犬の接近について注意喚起を行うことが望ましい。</p> <p>なお、集団越冬地では、船舶事故による油汚染や伝染病等の発生により個体群全体へ大きな影響を及ぼす可能性があることに留意する必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (冬季, 荒川河川敷)</p>
<p>【確認状況】</p> <p>冬季調査で荒川河川敷にて 7 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】</p> <p>東京都 RDB：留意種</p>	
No.3 ダイサギ	
<p>【生態情報】</p> <p>本種では漂鳥、四国や九州では夏鳥、南西諸島では冬鳥である。体長は 90 cm で、全身が白い。夏羽は嘴が黒く、胸や背に長い飾り羽がある。冬羽は嘴が黄色くなる。</p> <p>水田、湿地、湖沼、池、河川、河口、干潟等浅い水域で採食し、人やカラス類による攪乱が少ない樹林に集団で営巣する。魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類等を捕食する。</p> <p>埋立てによる浅い水域の減少、河川改修、水田の減少による採食地の減少や、営巣場所における人・カラス類による攪乱の増加が本種の生存を脅かす要因となる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 旧中川河川敷)</p>
<p>【確認状況】</p> <p>繁殖期調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p>秋渡り時期調査で、荒川河川敷にて 4 個体、旧中川河川敷にて 3 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】</p> <p>東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	

表 4. 2-23(2) 重要種の生態及び確認状況（鳥類）

No. 4 コサギ	
<p>【生態情報】 本州・四国・九州では留鳥または漂鳥、南西諸島では冬鳥である。体長は 61 cm。全身が白色で足指の黄色が目立つ。夏羽は後頭と背や胸に長い飾り羽が出る。水田、河川、湖沼、干潟等の浅い水域で採食し、人やカラスによる攪乱の少ない樹林に集団で営巣し、休息する。魚類やカエル類、甲殻類や昆虫類等を捕食する。採食地となる浅い水域の減少、ブラックバスの増加や水質悪化による小魚等の食物資源の減少、営巣場所における人・カラス類による攪乱の増加が本種の生存を脅かす要因となる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 旧中川河川敷)</p>
<p>【確認状況】 繁殖期調査で、隅田公園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 3 個体を確認した。 秋渡り時期の調査で、荒川河川敷にて 4 個体、大横川親水公園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 3 個体を確認した。 冬季調査で、隅田公園にて 1 個体、大横川親水公園にて 2 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	
No. 5 トビ	
<p>【生態情報】 北海道・本州・四国・九州では留鳥または漂鳥、南西諸島では冬鳥である。 体長は雄 58.5cm、雌 68.5cm。成鳥は全体が茶褐色で、翼下面の外側に白斑がある。尾はたたまむと凹形、広げると尾端が直線に揃う。海岸部や平地の河川・池沼に多いが、高山にも生息する。樹林で繁殖し、主に死肉を食べるがネズミ類、ヘビ類、カエル類等の小動物を食べることもある。 営巣に必要な大径木の減少、休息地となる樹林への立入りによる攪乱が本種の生存を脅かす要因である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (冬季, 大横川親水公園)</p>
<p>【確認状況】 冬季調査で大横川親水公園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】 東京都 RDB：準絶滅危惧（NT）</p>	
No. 6 ツミ	
<p>【生態情報】 北海道・本州（東北）では夏鳥、本州（関東以南）・四国・九州・南西諸島では留鳥である。 体長は雄 27 cm、雌 30 cm。雄成鳥は東部からの上面が暗青灰色で、体下面は白く、胸から脇は淡橙色である。平地や丘陵地、山地等の樹林や河畔林に生息するが、個体数は少ない。最近では市街地の公園内の樹林でも営巣することがある。 ハシブトガラスによる雛の捕食や、写真撮影や観察等の人為的ストレスによる攪乱が本種の生存を脅かす要因となる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (繁殖期, 東白鬚公園)</p>
<p>【確認状況】 繁殖期調査で東白鬚公園にて 1 個体を確認した。 秋渡り時期の調査で、向島百花園にて 1 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p>【指定状況】 東京都 RDB：絶滅危惧ⅠA類（CR）</p>	

表 4. 2-23 (3) 重要種の生態及び確認状況 (鳥類)

No.7 チョウゲンボウ	
<p><b>【生態情報】</b>            北海道・本州（中部以東）では留鳥または漂鳥、本州（中部以西）・四国・九州・南西諸島では冬鳥である。            体長は雄 30cm、雌 33cm。雄の成鳥は頭頸部、顔、腰から尾にかけてが青灰色。背や翼上面は茶褐色である。平地から山地の崖の他、橋脚や煙突等の人工建造物で繁殖する。海岸の埋立地や河川敷の草地、丘陵地や低山地の耕作地や造成地、住宅地等でも見られ、営巣もする。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。食物となるネズミ類や小鳥、昆虫類が豊富な広大な草地環境の減少が、本種の生存を脅かす要因である。現存する広大なヨシ原や草地の保全、こうした草地環境の創出、現存する草地への立入りについて必要に応じて注意喚起を行うことが望ましい。</p>	
<p><b>【確認状況】</b>            秋渡り時期の調査で旧中川河川敷にて 2 個体を確認した。</p>	<p>出典：レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（平成 25 年、東京都）</p>
<p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類（EN）</p>	
No.8 バン	
<p><b>【生態情報】</b>            北海道・本州（東北）では夏鳥、本州（関東以南）・四国・九州・南西諸島では留鳥である。            体長は 32.5cm。成鳥は全体に黒色だが、脇には白い縦斑がある。額板と嘴は赤く、嘴の先は黄色い。湖沼、池、河川、湿地に生息し、植物の種子や昆虫類、貝類、ミミズ類等を食べる。水際部の改修等によるヨシやガマが生育する湿地の減少や、水質の悪化に伴う食物となる生物の減少、ブラックバス等の増加によるふ化直後の捕食等が、本種の生存を脅かす要因である。生息地では、営巣場所となるヨシやガマの生育する湿地の保全や、水質の改善による食物資源の回復を図ることが望ましい。</p>	
<p><b>【確認状況】</b>            秋渡り時期の調査で旧中川河川敷にて 2 個体を確認した。            冬季調査で旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	<p>現地調査での確認個体            （秋渡り、旧中川河川敷）</p>
<p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧 II 類（VU）</p>	
No.9 オオバン	
<p><b>【生態情報】</b>            北海道・本州（東北北部）では夏鳥、本州（東北南部以南）・四国・九州では留鳥、南西諸島では冬鳥である。            体長 39cm、成鳥は全身が黒く、嘴と額板は白い。主にヨシ等が生育する湖沼、池、河川、水田等に生息し、水草の葉、茎、種子や昆虫類、貝類、甲殻類等を食べる。            水際部の改修等によるヨシやガマが生育する湿地の減少や、水質の悪化に伴う食物となる生物の減少、ブラックバス等の増加によるふ化直後の捕食等が、本種の生存を脅かす要因である。生息地では、営巣場所となるヨシやガマの生育する湿地の保全や、水質の改善による食物資源の回復を図ることが望ましい。</p>	
<p><b>【確認状況】</b>            冬季調査で、荒川河川敷にて 4 個体、旧中川河川敷にて 12 個体を確認した。</p>	<p>現地調査での確認個体            （冬季、荒川河川敷）</p>
<p><b>【指定状況】</b>            東京都 RDB：絶滅危惧 II 類（VU）</p>	

表 4. 2-23 (4) 重要種の生態及び確認状況 (鳥類)

No. 10 イソシギ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州(東北北部)では夏鳥、本州(東北南部以南)・四国・九州では留鳥、南西諸島では冬鳥である。                  体長は 20cm。成鳥の顔と胸は灰褐色で、喉と下胸からの体下面は白い。河川、湖沼、海岸、干潟等に生息し、昆虫類や甲殻類等を食べる。海岸の砂洲や河川の中州等の草地で営巣する。近年は都内での個体数減少が著しい。営巣環境である低茎草本がまばらに生育する草地環境の減少や、営巣地への人の立入りによる攪乱が、本種の生存を脅かす要因である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 旧中川河川敷)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  秋渡り時期の調査で、荒川河川敷にて 3 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。                  冬季調査で、荒川河川敷にて 5 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 11 チュウシャクシギ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州では旅鳥、南西諸島では旅鳥または冬鳥である。                  体長は 42 cm。成鳥は眉斑と頭中央線が白く、上面は褐色で淡色の羽縁がある。体下面は白く、わきから下尾筒にかけて褐色横斑がある。春・秋の渡り時期に海岸や河口の干潟や河川の浅瀬、泥地や草地で見られる。中小河川の水際で見られることもあり、昆虫類や甲殻類等を捕食する。                  浚渫、埋立て、護岸整備、河川改修等による干潟や泥地の減少、休息地となる裸地環境への人・犬・車の立入りによる攪乱が本種の生存を脅かす要因となる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 荒川河川敷北部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査(両爬哺調査中)で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 12 セイタカシギ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州では夏鳥または旅鳥、北海道・四国・九州・南西諸島では旅鳥である。                  体長 32cm、足と嘴が長い。雄の成鳥の夏羽は頭頂から後頸が黒く、上面は緑色光沢のある黒色、その他は白い。干潟、河口、湖沼、河川等に生息し、昆虫類や甲殻類、小魚等を食べる。埋立地の裸地で営巣していると考えられ、巣立ち後の家族は海岸の干潟で、渡りの時期は河川敷でも見られる。                  営巣環境となる干潟に近い場所の泥地や裸地は、埋立工事中から終了後間もない期間しか成立せず、繁殖活動は埋立工事に依存している。工事による営巣環境の攪乱が生じる恐れもある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 荒川河川敷南部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  秋渡り時期の調査で荒川河川敷にて 15 個体を確認した。                  冬季調査で荒川河川敷にて 5 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  環境省 RD：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)                  東京都 RDB：絶滅危惧ⅠB類 (EN)</p>	

表 4. 2-23 (5) 重要種の生態及び確認状況 (鳥類)

No. 13 アカエリヒレアシシギ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州・南西諸島で旅鳥である。                      体長は 19cm。冬羽は上面が灰色で、体下面は白い。眼の周り                      と後方に黒斑がある。嘴と足は黒く、嘴は細くまっすぐである。                      沿岸、河川、水田、湖沼等に生息し、甲殻類や貝類、昆虫類等                      を食べる。                      春・秋の渡り時期に、沿岸の海上や河川で見られるが、海上を                      主な生息地としているため、生息状況はよくわかっていない。                      海上調査を実施して、生息状況を把握することが望まれる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 荒川河川敷北部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋渡り時期の調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	
No. 14 ヒメアマツバメ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州(関東南部以西)・四国・九州で留鳥である。                      体長は 13cm。成鳥は体の大部分が黒色で、喉から頸と腰が白く                      翼は鎌形である。主に平地から低山地の開けた場所に生息し、飛                      翔性昆虫類を食べる。イワツバメの巣を利用することが多く、イ                      ワツバメの分布拡大とともに生息地を広げ、沿岸域でも見られ                      る。近年、都心部の高層ビルの最上階等の建築物にも営巣する。                      開発に伴う緑地の減少による飛翔性昆虫類の減少や、建築物の建                      て替えに伴う集団営巣地の消失、糞を嫌っての住民による巣の撤                      去等が、本種の生存を脅かす要因である。営巣分布については不                      明点が多く、今後の情報蓄積が望まれる。</p>	 <p>出典：レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(平成 25 年、東京都)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋渡り時期の調査で東白鬚公園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 15 カワセミ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道では夏鳥、本州・四国・九州・南西諸島では留鳥である。                      体長は 17cm。成鳥は背面が光沢のある青色で、頭部、頬、雨覆                      は黒褐色、胸からの体下面は橙色である。平地から低山地の河                      川、湖沼、都市公園の池等に生息する。小魚やザリガニ、エビ                      類、カエル類等を食べる。かつて分布が縮小したが、近年は都市                      部の小河川や公園の池でも見られるようになった。                      河川改修等による営巣可能な土の崖の減少、水質悪化やブラック                      バス等の捕食による小魚の減少、観察や写真撮影等の人為的スト                      レスによる営巣活動の攪乱等が本種の生存を脅かす要因である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 隅田公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋渡り時期の調査で隅田公園にて 1 個体を確認した。                      冬季調査で向島百花園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	

表 4. 2-23 (6) 重要種の生態及び確認状況 (鳥類)

<p>No. 16 ヒバリ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道では夏鳥、本州では留鳥または漂鳥、四国や九州では留鳥である。                      体長は 17 cm。全体的に褐色で後頭に冠羽がある。翼は黒褐色で、濃いバフ色の羽縁がある。眼の後方から耳羽を囲むように細い黒線がある。以前は山地を除く全域で見られ繁殖していたが、現在は広い草地が存在する河川敷や造成地等に限られる。冬は河川敷や耕作地の他、公園のグラウンドでも少数見られ、植物の種子や昆虫類等を捕食する。                      草丈が 30 cm 程度までの広い草地の減少や、生息地への人や犬の立入りによる攪乱が本種の生存を脅かす要因となる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      繁殖期調査で荒川河川敷にて 3 個体を確認した。                      冬季調査で、荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	 <p>現地調査での確認個体 (繁殖期, 荒川河川敷南部)</p>
<p>No. 17 モズ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州では留鳥または漂鳥、南西諸島では冬鳥である。                      体長は 20cm。雄の成鳥は頭部から後頸が茶褐色で、過眼線は黒い。背面は灰色、翼と尾は黒褐色である。平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園等に生息し、昆虫類やミミズ類、両生・爬虫類等を食べる。河川敷、丘陵地の低木林や草地、雑木林、耕作地、公園、住宅地等に広く生息し、繁殖をしている。                      開発等により、丘陵地の低木林や草地、耕作地といった本種の繁殖できる環境が減少している。現存する繁殖環境の保全、公園内や耕作地の周囲に草本類が繁茂する場所が残るような草刈り頻度の調節を行う等の配慮を行うことが望ましい。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋渡り時期の調査で、荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋渡り, 荒川河川敷中央)</p>
<p>No. 18 イソヒヨドリ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道では夏鳥、本州・四国・九州・南西諸島では留鳥である。                      体長は 25.5cm。雄の成鳥は頭部から尾までの背面と顔、喉から胸までが青色で、腹から下尾筒までは赤褐色である。海岸の岩場や崖、河川等に生息するが、建造物に営巣して市街地でも見られる。岩場があれば内陸でも生息する。昆虫類や甲殻類、両生・爬虫類等を食べる。                      生息状況が徐々に明らかになっているが、分布や営巣場所についてさらに詳細な状況の把握が望まれる。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋渡り時期の調査で、荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：情報不足 (DD)</p>	 <p>出典：レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～ (平成 25 年、東京都)</p>

表 4. 2-23 (7) 重要種の生態及び確認状況 (鳥類)

No. 19 オオヨシキリ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州で夏鳥である。                  体長は 18.5 cm で、成鳥は東部から尾にかけての背面が灰褐色で、体下面は淡色である。河口、河川、湖沼のヨシ原等に生息し、昆虫類やクモ類等を捕食する。渡りの時期には、平地の池のある公園で見られることもある。                  浚渫、埋立て、河川改修、アレチウリの繁茂等による広大なヨシ原の減少が本種の生存を脅かす要因となる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (繁殖期, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  繁殖期調査で荒川河川敷にて 2 個体を確認した。                  秋渡り時期の調査で旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 20 オオジュリン	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道では夏鳥、本州では留鳥または漂鳥、四国・九州では冬鳥である。                  体長は 16cm。雄成鳥の夏羽は頭部、顔、喉から上胸までが黒く、体下面は白い。背面は赤褐色で黒とバフ色の縦斑がある。平地の湿原、ヨシ原、草原に生息し、植物の種子や昆虫類等を食べる。大河川の河川敷や海岸の埋立地の広大なヨシ原に渡来し、越冬する。埋立て、浚渫、河川改修、アレチウリの繁茂等による、広大なヨシ原の減少が本種の生存を脅かす要因である。ヨシ原が広域に現存する場所の保全、必要に応じてアレチウリの繁茂の防止や除去を行うことが望ましい。</p>	 <p>出典：レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～ (平成 25 年、東京都)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  冬季調査で、荒川河川敷にて 3 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	

出典：「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～」  
(平成 25 年、東京都)

## 2.6.4 魚類

### 1) 確認種

現地調査により、10科25種の魚類を確認した。確認種の一覧は、表4. 2-24及び巻末資料に示すとおりである。

調査対象地区のうち荒川河川敷は汽水域であり、旧中川河川敷も汽水域との連続性があることから、汽水・海水魚であるサッパやコノシロ、スズキ、ボラ等が確認された。

また、ため池や湖等で幅広くみられるモツゴやコイが池を有する隅田公園や旧安田庭園で確認された。

表4. 2-24 確認種一覧（魚類）

No	目名	科名	種名	学名	
1	ニシン	ニシン	サッパ	<i>Sardinella zunasi</i>	
2			コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>	
3	コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	
-			コイ（飼育品種） <sup>注2</sup>	<i>Cyprinus carpio</i>	
4			キンギョ	<i>Carassius auratus</i>	
5			ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.	
6			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	
7			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	
8			ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	
9			ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	
10			ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>
-				Misgurnus 属 <sup>注3</sup>	<i>Misgurnus</i> sp.
11	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	
12	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	
-			ヒメダカ <sup>注2</sup>	<i>Oryzias latipes</i>	
13	カサゴ	コチ	マゴチ	<i>Platycephalus</i> sp.2	
14	スズキ	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	
15			タイ	キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>
16		ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	
17			メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i>	
18		ハゼ	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	
19			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	
20			アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	
21			アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	
22			旧トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius</i> sp. OR <i>morphotype unidentified</i>	
23			シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	
24			ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	
25			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	
-		Tridentiger 属 <sup>注3</sup>	<i>Tridentiger</i> sp.		
計		6 目	10 科	25 種	

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注2：「コイ（飼育品種）」はコイ、「ヒメダカ」はメダカの改良品種であるため、同一種として扱った。

注3：「Misgurnus 属」は、ドジョウ及びキタドジョウの可能性はあるが、雌個体及び小型個体であったため Misgurnus 属、「Tridentiger 属」は、ヌマチチブ及びチチブの可能性はあるが、小型個体であったため Tridentiger 属とした。

注4：種数は、科や属ごまりの生物は同科又は同属の生物が他に確認されていない場合、数えるものとする。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の魚類の生活タイプ別の主な確認種を表 4. 2-25 に示す。

前述のとおり、荒川河川敷と旧中川河川敷は汽水域となっており、スズキやボラ、マハゼ、アシシロハゼ等の汽水・海水魚が特徴的に出現した。

荒川河川敷、旧中川河川敷以外の 4 地区は基本的に閉鎖水域となっており、ため池や湖等で幅広くみられるモツゴやコイが主に確認された。そのほか、池沼や水路等を生息地とするミナミメダカも確認された。

表 4. 2-25 調査対象地区別の確認状況（魚類）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	生活タイプ別の主な確認種
1	荒川河川敷	8 科 13 種	河川（汽水域）	遊泳魚：コノシロ、ニゴイ、スズキ、ボラ、カダヤシ等 底生魚：マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ等
2	東白鬚公園	水域は存在するが、防災池であるため調査を実施していない。		
3	向島百花園	2 科 2 種	池（閉鎖水域）	遊泳魚：モツゴ、ミナミメダカ
4	隅田公園	4 科 6 種	池（閉鎖水域）	遊泳魚：コイ、モツゴ、タモロコ、カダヤシ 底生魚：ドジョウ、旧トウヨシノボリ類
5	旧安田庭園及び横網町公園	3 科 4 種	池（閉鎖水域）	遊泳魚：コイ、モツゴ、ミナミメダカ 底生魚：旧トウヨシノボリ類
6	大横川親水公園	4 科 8 種	池（閉鎖水域）・水路	遊泳魚：コイ、ギンプナ、モツゴ、ヒメダカ 底生魚：旧トウヨシノボリ類
7	旧中川河川敷	4 科 9 種	河川（汽水域）	遊泳魚：スズキ、ボラ、カダヤシ 底生魚：ビリンゴ、マハゼ、アベハゼ、ヌマチチブ、チチブ
8	京島一丁目	生物が生息する水域が存在しないため調査を実施していない。		

### 3) 重要種の確認状況

魚類の重要種として5科9種が確認された。確認種は表4. 2-26に示すとおりである。  
また、確認種の生態及び確認状況は表4. 2-27に示すとおりである。

表4. 2-26 重要種の選定結果（魚類）

No.	目名	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種					
				1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	③	④		
1	コイ	コイ	ニゴイ	●	-							-				NT	
2		ドジョウ	ドジョウ		-		●					-				NT	
3	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		-	●		●				-				VU CR+EN	
4	スズキ	ボラ	メナダ	●	-							-				NT	
5		ハゼ	ビリンゴ		-							●	-				NT
6			アシシロハゼ	●	-								-				留
7			アベハゼ	●	-								●	-			NT
8			ヌマチチブ		-								●	-			留
9			チチブ		-								●	-			留
計	3目	5科	9種	4種	-	1種	1種	1種	0種	4種	-	0種	0種	2種	8種		

注1: 1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目（ただし、2 東白鬚公園 と 8 京島一丁目 は調査対象外）

注2: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3: 重要種選定基準

①文化財保護法(昭和25年 法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料「環境省レッドリスト2018の公表について(平成30年、環境省)」における選定種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, CR+EN: 絶滅危惧 I 類,  
VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京2013～東京の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(平成25年、東京都)における選定種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, CR+EN: 絶滅危惧 I 類,  
VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, 留: 留意種

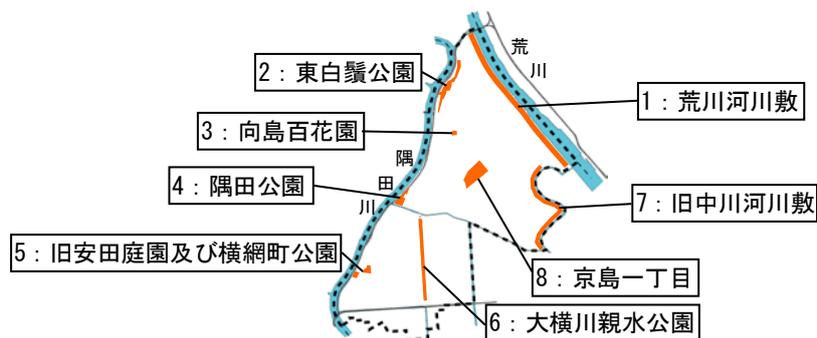


表 4. 2-27(1) 重要種の生態及び確認状況（魚類）

<p>No.1 ニゴイ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      本州（中部以北・山口）・九州に分布する。                      体長 60cm 程度で、体型は紡錘型で 1 対の口ひげがある。吻は下方に突き出すように伸びる。主に河川の中・下流域や池沼等に生息するが、汽水域にも生息できる。産卵にきれいな砂礫底を必要とする。                      水質や底質の悪化、河床のアーマー化<sup>注1</sup>等、生息環境の悪化により、生息水域や個体数が減少する恐れがある。昭和 50 年代に河川の汚染が進んだ時代に東京都本土部の河川から多くが姿を消したが、近年水質の改善とも多摩川等で増えている。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧（NT）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p>No.2 ドジョウ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      日本各地・中国大陸・台湾島・朝鮮半島に分布する。                      体は細く、やや側偏する。口髭は 10 本。体色は淡褐色～暗褐色で、暗色斑が散在することもある。全長 15 cm で、雌の方が大きくなる。雄の胸びれは先端が尖り、メスは丸みを帯びる。河川中・下流域、用水路等の流れの緩やかな泥底に棲み、初夏に水田等の浅い湿地に進入して産卵する。                      近年の河川改修、水田地帯における用水路の三面護岸化や用排別水路化等による生息地や繁殖場の減少、国外産の近縁種カラドジョウの侵入により競合が生じている恐れがある。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      隅田公園にて、夏季調査で 3 個体、秋季調査で 4 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：準絶滅危惧（NT）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (夏季調査, 隅田公園)</p>
<p>No.3 ミナミメダカ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      体は細長く、東武は前端ではやや縦偏し、後方は概ね円筒形で躯幹部から尾部にかけては後方ほど強く側偏する。雄の背びれは縁辺が大きく、欠刻する。臀びれは基底が長く、雄のひれ条は雌のそれよりも長い。体色は半透明で黄色みを帯び、頭部腹面から腹部にかけては白い。尾部には真珠光沢のある鱗が散在する。止水域あるいは流れが緩やかで水草が繁茂する場所を好む。ほとんどの分布域で、主要生息地である水田の圃場整備や乾田化の進行による生息地の消失、飼育品種の導入による遺伝子汚染の進行が大幅な個体群減少に繋がる可能性がある。                      確認個体は野生種ではなく、放流種の可能性がある。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で旧安田庭園にて 15 個体を確認した。                      秋季調査で、向島百花園にて 1 個体、旧安田庭園にて 10 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類（VU）                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (夏季調査, 旧安田庭園)</p>

表 4. 2-27 (2) 重要種の生態及び確認状況 (魚類)

No. 4 メナダ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長 70cm 程度で、体型は紡錘型で頭部は扁平する。尾びれはあまり湾入せず、眼球の周囲が赤く、口ひげはない。河口域や干潟等に生息する。ボラによく似るがその個体数は少なく、区部の感潮域に少数が回遊してくる。                      河口域や干潟等の環境が悪化することにより、個体数が減少する恐れがある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (秋季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	
No. 5 ビリンゴ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長は 5 cm 程度で、体型は細長い紡錘型で体側に暗色横斑がある。腹びれは吸盤状になっている。河川の感潮域の砂泥底に生息する。                      水質悪化によるヘドロの堆積や水質汚濁等により個体数が減少する恐れがある。近年の水質改善とともに、河川の干潟や河口での個体数が増えつつある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 旧中川河川敷南部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。                      秋季調査で旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧 (NT)</p>	
No. 6 アシシロハゼ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長は 9 cm 程度である。体型は細長い紡錘型で頭がやや丸い。体側に暗色斑がある。河川の汽水域から内湾に生息する。                      水質悪化によるヘドロの堆積や水質汚濁等で、個体数が減少する恐れがある。かつて激減したが、河口干潟の保全に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため留意種に指定された。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 4 個体を確認した。                      秋季調査で荒川河川敷にて 11 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：留意種</p>	

表 4. 2-27 (3) 重要種の生態及び確認状況 (魚類)

<p>No. 7 アベハゼ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      本州（宮城、石川以南）・四国・九州に分布する。                      体長は 4 cm 程度である。体型は細長い紡錘型で頭は丸い。体側に暗色斑と尾びれに向かって伸びる 2 本の黒褐色縦帯がある。河川の汽水域の泥底に生息する。                      河川の汚染が進んだ時代に急激に個体数を減らしたが、近年の水質改善とともに河川の干潟や河口で個体数が増えつつある。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 2 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。                      秋季調査で、荒川河川敷にて 5 個体、旧中川河川敷にて 6 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：準絶滅危惧（NT）</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p>No. 8 ヌマチチブ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長は 13 cm 程度である。体型は細長い紡錘型で頭は丸い。体側に青白色点が点在する。河川の中流域から汽水域、ため池等に生息する。                      間隙空間の大きい礫底等を生息環境としているため、護岸のコンクリート化や水質悪化によるヘドロの堆積や水質汚濁、河床のアーマー化<sup>注1)</sup>等により、個体数が減少する恐れがある。堰ができたことで減少したが、魚道の整備や堰の開放によって近年回復している。ただし、堰が閉まると減少する可能性が高く、今後の動向に留意する必要があるため留意種に指定された。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で旧中川河川敷にて 2 個体を確認した。                      秋季調査で旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：留意種</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (夏季調査, 旧中川河川敷南部)</p>
<p>No. 9 チチブ</p> <p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長 10cm 程度で、体型は細長い紡錘型で頭は丸い。体側に青白色点が点在する。胸びれつけ根の黄斑に橙色線がない。内湾や河川の汽水域に生息する。                      間隙空間の大きい礫底等を生息環境としているため、護岸のコンクリート化や水質悪化によるヘドロの堆積や水質汚濁、河床のアーマー化<sup>注1)</sup>等により、個体数が減少する恐れがある。かつて減少したが、水質・底質改善に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため留意種に指定された。</p> <p><b>【確認状況】</b>                      秋季調査で旧中川河川敷にて 2 個体を確認した。</p> <p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB：留意種</p>	 <p>現地調査での確認個体                      (秋季調査, 旧中川河川敷南部)</p>

出典：「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」  
 (平成 25 年、東京都)

注 1：アーマー化とは河床表層の粗粒化をいう。ダムの建設等により砂礫の供給が制限されると、下流側では河床から細かい礫や砂が流出し、表層には粗い礫だけが残った状態となる。

#### 4) 外来種の確認状況

魚類の外来種として1科1種が確認された。確認種は表4. 2-28に示すとおりである。

確認されたカダヤシは特定外来生物に指定されている。本種の生態及び確認状況は表4. 2-29に示すとおりである。

表4. 2-28 外来種の選定結果（魚類）

No.	目名	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種	
				1	2	3	4	5	6	7	8	①	②
1	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	●	-		●		●	●	-	特	総合/重点
計	1目	1科	1種	1種	-	0種	1種	0種	1種	1種	-	1種	1種

注1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目（ただし、2 東白鬚公園 と 8 京島一丁目 は調査対象外）

注2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3：外来種選定基準

① 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）による指定種

特：特定外来種

② 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成27年、環境省・農林水産省）による指定種

1) 由来

国内由来の外来種（自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種）と国外由来の外来種があるが、本調査にて確認された外来種は全て国外由来であったため、記載を省略した。

2) カテゴリ

**総合対策外来種**：国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。総合対策は更に下記のとおり3区分される。

緊急：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

重点：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

その他：上記以外の総合対策外来種。

《被害の深刻度に関する基準》

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす。  
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

**産業管理外来種**：産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。

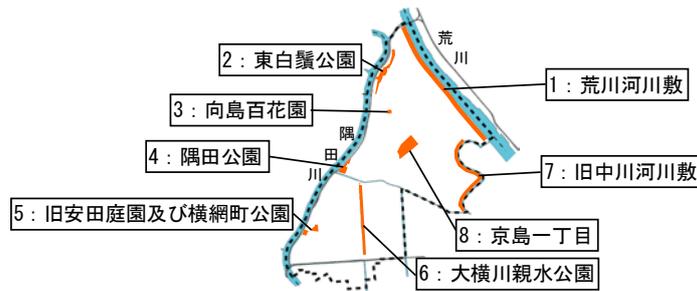


表 4. 2-29 特定外来生物の生態及び確認状況（魚類）

No.1 カダヤシ	
<p><b>【生態情報】</b>            北米大陸のミシシッピ川流域からメキシコ北部までに分布する。            体長は雌 5 cm、雄 3 cm である。雌の尻びれは変形して交尾器となり、前後に動かすことができる。一度交尾した雌は体内に精子を蓄えることができる。卵ではなく直接仔魚を産む。繁殖期は関東では 5～10 月で、月 1 回のペースで産み続ける。流れの緩い河川下流や灌漑用水に生息し、塩分や水質汚濁に比較的強い。メダカに似るが、体がもっと青っぽく、尾びれが丸い。ボウフラの駆除で導入されたが、在来種であるメダカとの競合が問題となり、外来生物法で特定外来生物に指定された。</p>	 <p>現地調査での確認個体            (秋季調査, 旧中川河川敷)</p>
<p><b>【確認状況】</b>            夏季調査で隅田公園にて 16 個体、大横川親水公園にて 21 個体、旧中川河川敷にて 8 個体を確認した。            秋季調査で荒川河川敷にて 1 個体、隅田公園にて 24 個体、大横川親水公園にて 17 個体、旧中川河川敷にて 11 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>            外来生物法で特定外来生物に指定</p>	

出典：「侵入生物データベース」<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>  
 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

## 2.6.5 水生生物

### 1) 確認種

現地調査により、10 綱 26 目 51 科 90 種の水生生物を確認した。確認種の一覧は、表 4. 2-30 及び巻末資料に示すとおりである。なお、本調査において水生生物とは、水生昆虫類、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類、ミミズ類等を含む生物とした。

汽水環境では、アリアケモドキやマガキ、ヤマトシジミ、池ではスジエビやアメンボ、サカマキガイ等が確認された。

表 4. 2-30(1) 確認種一覧（水生生物）

No.	綱名	目名	科名	種名	学名		
1	花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	Actiniaria sp.		
2	有棒状体	三岐腸	コガタウミウズムシ	サンカクウミウズムシ	<i>Paucumara trigonocephala</i>		
3	-	-	-	紐形動物門	NEMERTINEA sp.		
4	腹足	新生腹足	タニシ	ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>		
5			カワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>		
6				カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>		
-		汎有肺	モノアラガイ	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>		
-				モノアラガイ科	Lymnaeidae sp.		
8			サカマキガイ	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>		
9			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis spirillus</i>		
10					ヒロマキミズマイマイ	<i>Menetus dilatatus</i>	
11				カワコザラガイ	カワコザラガイ	<i>Laevapex nipponica</i>	
12			二枚貝	イガイ	イガイ	カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>
13					コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	
14	ウグイスガイ	イタボガキ		マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>		
15	マルスダレガイ	シジミ		ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>		
-	オオノガイ	フナクイムシ		フナクイムシ科	Teredinidae sp.		
16				フナクイムシ科	Teredinidae sp.		
17	ゴカイ	サシバゴカイ	サシバゴカイ	Eteone 属	<i>Eteone</i> sp.		
18			ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>		
19				アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>		
20				イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>		
21		スピオ	スピオ	Boccardiella 属	<i>Boccardiella</i> sp.		
22				Carazziella 属	<i>Carazziella</i> sp.		
23				Polydora 属	<i>Polydora</i> sp.		
24		イトゴカイ	イトゴカイ	Capitella 属	<i>Capitella</i> sp.		
25				Notomastus 属	<i>Notomastus</i> sp.		
26		ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>		
27		ミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科	Lumbriculidae sp.	
28	イトミミズ		ミズミミズ	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>		
29				Dero 属	<i>Dero</i> sp.		
30	フトゲユリミミズ		フトゲユリミミズ	<i>Limnodrilus grandisetosus</i>			
31				ヨゴレミズミミズ	<i>Slavina appendiculata</i>		
32				テングミズミミズ	<i>Stylaria fossularis</i>		
-				ミズミミズ科	Naididae sp.		

表 4. 2-30(2) 確認種一覧 (水生生物)

No.	綱名	目名	科名	種名	学名		
33	ヒル	吻無蛭	ナガレビル	ナガレビル科	Salifidae sp.		
34	顎脚	フジツボ	フジツボ	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		
35				アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>		
36				ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>		
37				シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>		
38				ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>		
39	軟甲	タナイス	タナイス	キシタナイス	<i>Sinelobus stanfordi</i>		
40		クーマ	シロクーマ	シロクーマ科	Leuconidae sp.		
41		ヨコエビ	ユンボソコエビ	ニッポンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		
-				Grandidierella 属	<i>Grandidierella</i> sp.		
42				ドロクダムシ	Apocorophium 属	<i>Apocorophium</i> sp.	
43				キタヨコエビ	キタヨコエビ科	Anisogammaridae sp.	
44				メリタヨコエビ	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>	
-				Melita 属	<i>Melita</i> sp.		
45				ハマトビムシ	Platorchestia 属	<i>Platorchestia</i> sp.	
46				ワラジムシ	ミズムシ (甲)	ミズムシ (甲)	<i>Asellus hilgendorfi</i>
47		コツブムシ	Gnorimosphaeroma 属			<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	
48		フナムシ	キタフナムシ			<i>Ligia cinerascens</i>	
-				Ligia 属	<i>Ligia</i> sp.		
49		アミ	アミ	クロイサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>		
50		エビ	ヌマエビ	ヌマエビ	Neocaridina 属	<i>Neocaridina</i> sp.	
51				テナガエビ	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	
52				シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>		
53				スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>		
54				スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>		
-				Palaemon 属	<i>Palaemon</i> sp.		
55				アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	
56				ベンケイガニ	クロベンケイガニ	<i>Chironantes dehaani</i>	
57				モクズガニ	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	
58					タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	
59					ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>
60					コメツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>
61		昆虫	カゲロウ (蜻蛉)	コカゲロウ	Cloeon 属	<i>Cloeon</i> sp.	
62	トンボ (蜻蛉)		イトトンボ	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>		
-				イトトンボ科	Coenagrionidae sp.		
63	ヤンマ		ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>			
64	エゾトンボ		オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans</i>			
65	トンボ			ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>		
66				シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>		
67				コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>		

表 4. 2-30(3) 確認種一覧（水生生物）

No.	綱名	目名	科名	種名	学名		
68	昆虫	カメムシ (半翅目)	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>		
69				ハネナシアメンボ	<i>Gerris nepalensis</i>		
70				トガリアメンボ	<i>Rhagadotarsus kraepelini</i>		
71				イトアメンボ	ヒメイトアメンボ	<i>Hydrometra procera</i>	
72				ミズカメムシ	Mesovelia 属	<i>Mesovelia</i> sp.	
73				カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ	<i>Microvelia douglasi</i>	
-					Microvelia 属	<i>Microvelia</i> sp.	
74				ミズギワカメムシ	ミズギワカメムシ	<i>Saldula saltatoria</i>	
75				ミズムシ (昆)	ミヅナシミズムシ	<i>Cymatia apparens</i>	
76					コチビミズムシ	<i>Micronecta guttata</i>	
77					クロチビミズムシ	<i>Micronecta orientalis</i>	
78					マツモムシ	コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarensis</i>
79						マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>
80				ハエ (双翅目)	ユスリカ	Chironomus 属	<i>Chironomus</i> sp.
81		Cricotopus 属	<i>Cricotopus</i> sp.				
82		Dicrotendipes 属	<i>Dicrotendipes</i> sp.				
83		Glyptotendipes 属	<i>Glyptotendipes</i> sp.				
84		Hydrobaenus 属	<i>Hydrobaenus</i> sp.				
85		Polypedilum 属	<i>Polypedilum</i> sp.				
86		Procladius 属	<i>Procladius</i> sp.				
87		Stictochironomus 属	<i>Stictochironomus</i> sp.				
88		Tanypus 属	<i>Tanypus</i> sp.				
89		Tanytarsus 属	<i>Tanytarsus</i> sp.				
90		Telmatogeton 属	<i>Telmatogeton</i> sp.				
-			ユスリカ科	Chironomidae sp.			
計		10 綱	26 目	51 科		90 種	

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注2：種数は、科や属どまりの生物は同科又は同属の生物が他に確認されていない場合、数えるものとする（同種であった場合、重複することになるため）。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の水生生物の分類別の主な確認種を表 4. 2-31 に示す。

荒川河川敷、旧中川河川敷では、水際植生部でモクズガニやクロベンケイガニ等のカニ類、ヤマトシジミやマガキ等の貝類が特徴的に確認された。

また向島百花園、隅田公園、旧安田庭園及び横網町公園、大横川親水公園の池では、スジエビ、アメリカザリガニやアメンボ、サカマキガイ等が主に確認された。

表 4. 2-31 調査対象地区別の確認状況（水生生物）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	分類別の主な確認種
1	荒川河川敷	23 科 27 種	河川（汽水域）	甲殻類：モクズガニ、シラタエビ、クロベンケイガニ、タカノケフサイソガニ、アリアケモドキ 貝類：ヨシダカワザンショウガイ、ヤマトシジミ ゴカイ類：ヤマトカワゴカイ、イトメ
2	東白鬚公園	水域は存在するが、防災池であるため調査を実施していない。		
3	向島百花園	20 科 30 種	池（閉鎖水域）	甲殻類：アメリカザリガニ、ミズムシ（甲） 貝類：サカマキガイ、ヒロマキミズマイマイ 昆虫類：アメンボ、コチビミズムシ、マツモムシ
4	隅田公園	16 科 22 種	池（閉鎖水域）	甲殻類：アメリカザリガニ、スジエビ 貝類：サカマキガイ、ヒラマキミズマイマイ 昆虫類：アメンボ、ヒメイトアメンボ
5	旧安田庭園及び横網町公園	8 科 12 種	池（閉鎖水域）	甲殻類：スジエビ 貝類：ヒメタニシ、サカマキガイ、カワコザラガイ 昆虫類：アメンボ、トガリアメンボ
6	大横川親水公園	12 科 14 種	池（閉鎖水域）・水路	甲殻類：スジエビ、アメリカザリガニ 貝類：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ 昆虫類：アメンボ、ハネナシアメンボ
7	旧中川河川敷	24 科 37 種	河川（汽水域）	甲殻類：キタフナムシ、スジエビモドキ、クロベンケイガニ 貝類：ヨシダカワザンショウガイ、コウロエンカワヒバリガイ、マガキ ゴカイ類：アシナガゴカイ、カニヤドリカンザシゴカイ 昆虫類：アメンボ
8	京島一丁目	生物が生息する水域が存在しないため調査を実施していない。		

### 3) 重要種の確認状況

水生生物の重要種として9科11種が確認された。確認種は表4. 2-32に示すとおりである。また、確認種の生態及び確認状況は、表4. 2-33に示すとおりである。

表4. 2-32 重要種の選定結果（水生生物）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種				
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	③	④	
1	カワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ	●	-					●	-				NT	VU
2	ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ		-		●				-				DD	CR+EN
3	シジミ	ヤマトシジミ	●	-						-				NT	留
4	テナガエビ	テナガエビ	●	-						-					留
5		シラタエビ	●	-						-					留
6		スジエビ		-		●	●	●		-					留
7	ベンケイガニ	クロベンケイガニ	●	-					●	-					留
8	モクズガニ	モクズガニ	●	-						-					留
9	コメツキガニ	チゴガニ	●	-						-					留
10	アメンボ	ハネナシアメンボ		-		●		●		-				DD	
11	ミズムシ(昆)	ミゾナシミズムシ		-	●					-				NT	
計	9科	11種	7種	-	1種	3種	1種	2種	2種	-	0種	0種	4種	10種	

注1: 1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目（ただし、2 東白鬚公園 と 8 京島一丁目 は調査対象外）

注2: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3: 重要種選定基準

①文化財保護法(昭和25年 法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2018の公表について(平成30年、環境省)における選定種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧IA類, EN: 絶滅危惧IB類, CR+EN: 絶滅危惧I類, VU: 絶滅危惧II類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京2013～東京の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～(平成25年、東京都)における選定種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧IA類, EN: 絶滅危惧IB類, CR+EN: 絶滅危惧I類, VU: 絶滅危惧II類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, 留: 留意種

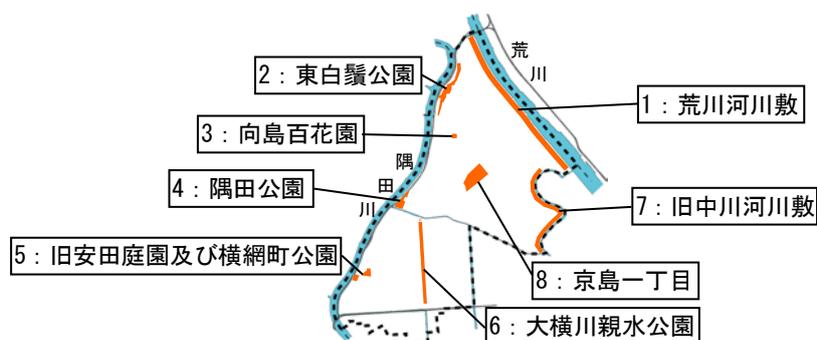


表 4. 2-33(1) 重要種の生態及び確認状況（水生生物）①

No. 1 ヨシダカワザンショウガイ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州（東京湾以西）・四国・九州に分布する。                      殻高 3.2 mm、殻径 2.2 mm 程度の円錐形で、殻はやや薄質でやや堅固である。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻は光沢のある淡栗色である。殻表は平滑で、臍穴は狭く開き、その周囲は黄色帯を巡らすように見える。ヨシの生育する河口汽水域に生息する。                      干潟環境の保全が望ましい。埋立てやヨシ原の減少、干潟上部の乾燥化が個体数減少の原因と考えられている。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （夏季調査，旧中川河川敷南部）</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で旧中川河川敷にて 4 個体を確認した。                      冬季調査で、荒川河川敷にて 1 個体、旧中川河川敷にて 39 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：準絶滅危惧（NT）                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）</p>	
No. 2 ヒラマキミズマイマイ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                      殻高 1.8 mm、殻径 6 mm 程度の円盤形で、やや小型、殻は薄質である。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表はほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度である。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に弱い角を持ち、殻皮突起は不明瞭。池沼、河川、水田等の水草や礫等に付着する。                      農薬散布や水田の減少、乾田化が個体数減少の原因と考えられ、工事等に際しては十分な配慮が必要である。極めて形態の類似した外来種が分布を拡大させている可能性も高く、両種の情報収集も必要である。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （冬季調査，隅田公園）</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      冬季調査で隅田公園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：情報不足（DD）                      東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）</p>	
No. 3 ヤマトシジミ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      殻長 36 mm、殻高 33 mm、殻幅 21 mm 程度の亜三角形である。殻はやや厚質、腹縁はやや直線的である。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は漆黒色で光沢がある。河口の汽水域に生息する。河口や淡水が影響する内湾、河口の汽水域の砂泥底に生息する。                      埋立てや護岸建設等が個体数減少の原因と考えられている。都内で確認されているのは移入個体群の可能性が高く、今後の情報収集が望まれる。</p>	 <p>現地調査での確認個体                      （夏季調査，荒川河川敷中央）</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 4 個体を確認した。                      冬季調査で荒川河川敷にて 6 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      環境省 RL：準絶滅危惧（NT）                      東京都 RDB：留意種</p>	

表 4. 2-33 (2) 重要種の生態及び確認状況 (水生生物) ②

No. 4 テナガエビ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州に分布する。                      体長 8~10 cm (額角を含める) である。額角は真っ直ぐで、第 2 触覚鱗片の先端に達する。上縁に 12~13 歯、下 2~4 歯がある。尾節は第 6 腹節より長く、背側縁と末端縁に各 2 対の刺がある。第 2 胸脚は十分に成長した雄では体長の 1.5~2 倍の長さになる。また、若い個体では指部と掌部は等長であるが、大型の雄では掌部が指部の 1.3 倍になる。河川や湖沼に生息する。良好な河川環境の指標となる種であるが、水質汚濁の影響を受けるほか、摂餌活動が活発な初夏には釣りの対象とされるため、捕食圧がかかる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 留意種</p>	
No. 5 シラタエビ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道 (南部)・本州・四国・九州に分布する。                      体長は約 7 cm (額角を含める)、額角は細長く、頭胸甲長の 1.5 倍ほどの長さがあり、前方の約 2/3 が斜め上方を向く。額角の上縁基部の盛り上がりは強く、その縁に 6~7 歯が並ぶ。下縁には 3~6 歯がある。尾節はくさび形で背側縁に 2 対、末端部両側に 2 対の刺がある。第 1、第 2 脚は細長く、はさみを持つ。一般に透明感があり、頭胸甲、腹部ともに複雑な模様はない。内湾の汽水域に生息するが、浅海域でも見られる。これらの生息地は物理的な環境変化や水質汚濁の影響を受けやすい。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 6 個体を確認した。                      冬季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 留意種</p>	
No. 6 スジエビ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・四国・九州に分布する。                      体長は約 5cm (額角を含める)、額角は頭胸甲長の約 1/2 で、先端がやや上を向く。上縁に 5~6 歯、先端近くに 1 小歯、下縁に 2 歯がある。尾節の背側縁と末端近くの両側に各 2 対の刺がある。第 1、2 胸脚は小さなはさみを持ち、後方 3 対の胸脚は後方ほど長い。透明感のある体に明瞭な黒色縞模様があり、各胸脚の関節部は黄色い。                      河川、大型湖、池沼等多様な淡水環境に生息し、河口に近い汽水域でも見られる。流域の水草の減少や水質汚染の影響を受ける。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 大横川親水公園 万華池)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で隅田公園にて 3 個体、旧安田庭園にて 4 個体、大横川親水公園にて 2 個体を確認した。                      冬季調査で隅田公園にて 5 個体、旧安田庭園にて 5 個体、大横川親水公園にて 3 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 留意種</p>	

表 4. 2-33 (3) 重要種の生態及び確認状況 (水生生物) ③

No. 7 クロベンケイガニ	
<p><b>【生態情報】</b>                  秋田及び岩手から九州までの日本海側・太平洋側両沿岸・南西諸島に分布する。                  甲幅は約 3.5 cm、甲の輪郭は四角形で、背面は前後に弱く湾曲する。甲域は深い溝で明瞭に分けられ、甲の側縁に近い鰓域上には平行な斜めの条線が多数ある。眼窩外歯は前方を向いて鋭く尖るが、甲の左右の側縁に切れ込みはない。歩脚は太く長い。河口の水域周辺を中心に生息し、都心に近い汚れた中流域まで河川を遡上する。                  水質汚濁に強いことから「クロベンケイガニさえ棲めない」極度な汚染の指標となることもある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。                  冬季調査で荒川河川敷にて 5 個体、旧中川河川敷にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：留意種</p>	
No. 8 モクズガニ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                  甲幅は約 5.5 cm で、甲の輪郭は丸みを帯びた四角形で、甲面は平たくて浅い溝で甲域に区分される。額縁は中央が浅く窪み、その左右が弱く突出するため、額縁全体が波打つ状態である。眼窩外歯の後方に 2 歯があるが切れ込みは小さい。はさみ脚掌部に軟毛の房があり、大型の雄では特に著しい。                  河川の中流域に生息し、土手等に穴居する他、石の下に潜む。降海して半年ほどの間に 2・3 回幼生を海に放ち、海で育った稚ガニが河川を遡上する。                  河口域の水質汚濁や、特定外来生物のチュウゴクモクズガニとの競合が懸念される。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で荒川河川敷にて 3 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：留意種</p>	
No. 9 チゴガニ	
<p><b>【生態情報】</b>                  東京湾以南から九州沿岸までに分布する。                  甲幅は約 1 cm、甲の輪郭はやや横長の四角形ないし六角形である。甲面には短毛が疎らに生える。額縁は短く、その側部から細長い眼窩が斜め後方に走る。眼窩は背側に開き、細長い眼柄が収まる。左右のはさみ脚は同形同大で、雌雄とも掌部と指部が白い。雄は口部周辺が青緑色である。河口域の砂泥地に巣穴を掘って生活し、干潮時に長時間地表で活動する。摂餌後は口の部分で砂を丸め、巣穴周辺に置く。                  河口域の砂泥地は水質汚染や環境改変の影響を受けやすい。流軸の水量が減少し続けるとヨシが繁茂しすぎ、生息場を失う。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (冬季調査, 荒川河川敷)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  冬季調査で荒川河川敷にて 2 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：留意種</p>	

表 4. 2-33 (4) 重要種の生態及び確認状況 (水生生物) ④

No. 10 ハネナシアメンゴ	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道・本州・四国・九州に分布する。                  体長は 6.5～10 mm である。体は灰黒色から黒色である。成虫は無翅型で、ときに長翅型も見られる。                  水生の浮葉植物が生育する場所に好んで生息する種である。環境変化に脆弱で絶滅危惧に該当する可能性があるため、更なる調査が必要である。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 隅田公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  夏季調査で隅田公園にて 4 個体、大横川親水公園にて 3 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB : 情報不足 (DD)</p>	
No. 11 ミゾナシミズムシ (昆虫類)	
<p><b>【生態情報】</b>                  北海道から九州にかけて分布する。                  体長 5～6 mm の小型のミズムシで、一見コミズムシ類に似ているが、本種はやや細い。顔 (頭部腹面) は非常に短く三角形で、口 (下唇) の横溝を欠く。前脚の附節は細長くなり、太い剛毛が列生する。前胸背板には黒色の横帯があり、斑紋パターンはコミズムシ類と基本的に同じだが、コミズムシ類と異なる点は、肉食性が強いところである。やや深い池沼等、安定した止水域に生息するが、その密度は高くない。                  近年減少しつつあるが、その原因として良好な池沼の減少と水質悪化、また外来魚の侵入も大きい。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (冬季調査, 向島百花園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  冬季調査で向島百花園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  環境省 RL : 準絶滅危惧 (NT)</p>	

出典 : 「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版～」

(平成 25 年、東京都)

「レッドデータブック 日本の絶滅のおそれのある野生生物 2014-5 昆虫類」

(平成 27 年、環境省)

#### 4) 外来種の確認状況

水生生物の外来種として5科8種が確認された。確認種は、表4. 2-34に示すとおりである。確認種のうち、カワヒバリガイは特定外来生物に指定されている。本種の生態及び確認状況は表4. 2-35に示すとおりである。

表4. 2-34 外来種の選定結果（水生生物）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種		
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	
1	モノアラガイ	ハブタエモノアラガイ		-	●				●		-		総合/その他
2	イガイ	カワヒバリガイ	●	-						●	-	特	総合/緊急
3		コウロエンカワヒバリガイ		-						●	-		総合/その他
4	カンザシゴカイ	カニヤドリカンザシゴカイ		-						●	-		総合/その他
5	フジツボ	タテジマフジツボ		-						●	-		総合/その他
6		アメリカフジツボ		-						●	-		総合/その他
7		ヨーロッパフジツボ	●	-						●	-		総合/その他
8	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		-	●	●			●		-		総合/緊急
計	5科	8種	2種	-	2種	1種	0種	2種	6種	-	1種		8種

注1: 1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目（ただし、2 東白鬚公園 と 8 京島一丁目 は調査対象外）

注2: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

① 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）による指定種

特：特定外来種

② 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成27年、環境省・農林水産省）による指定種

1) 由来

国内由来の外来種（自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種）と国外由来の外来種があるが、本調査にて確認された外来種は全て国外由来であったため、記載を省略した。

2) カテゴリ

**総合対策外来種**：国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。総合対策は更に下記のとおり3区分される。

**緊急**：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

**重点**：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

**その他**：上記以外総合対策外来種。

《被害の深刻度に関する基準》

① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。

② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。

③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。

④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす。

（対策の実効性、実行可能性）

⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

**産業管理外来種**：産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。

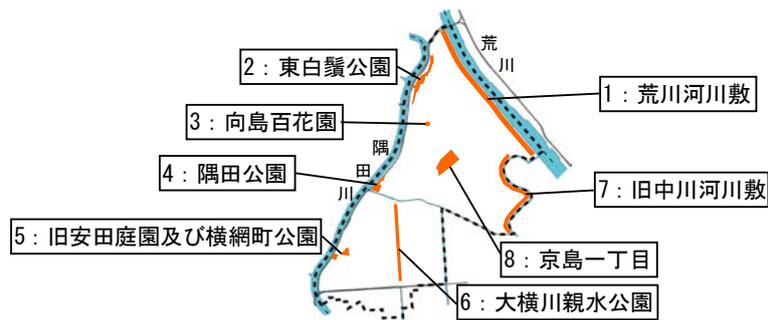


表 4. 2-35 特定外来生物の生態及び確認状況（水生生物）

No.1 カワヒバリガイ	
<p><b>【生態情報】</b>            中国等の東アジアから東南アジアにかけて分布する。最大殻長は約 40 mm、固着性二枚貝で殻は薄い。殻の内側には真珠光沢がある。水中の暗所を好み、水中の栄養分を濾過して摂取している。高い繁殖力を持つ。足糸で基質に付着し、団子状に固まるため農業水利施設の取水口や導水管を詰まらせるといった被害が報告されている。また、吸虫類の第一中間宿主になっているため、魚類等の水生生物に影響をもたらすこともある。</p> <p>日本への侵入経路は、輸入シジミ類への混入と考えられている。また、バラスト水に含まれた浮遊幼生及び船舶等に成体が付着する形態で侵入する可能性もある。関東には少なくとも 2004 年に侵入している。</p>	 現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷中央)
<p><b>【確認状況】</b>            夏季調査で荒川河川敷にて 13 個体を確認した。            冬季調査で、荒川河川敷にて 9 個体、旧中川河川敷にて 3 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>            カワヒバリガイ属は、外来生物法で特定外来生物に指定</p>	

出典：「侵入生物データベース」<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>  
 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

## 2.6.6 昆虫類・クモ類

### 1) 確認種

現地調査により、15 目 184 科 591 種の昆虫類・クモ類を確認した。確認種の目別の内訳は表 4. 2-36 に示すとおりである。確認種の一覧は、巻末資料に示した。

確認種数を目別に比較すると、コウチュウ目(鞘翅目)が 159 種と最も多く、次いでカメムシ目(半翅目)が 113 種、クモ目が 87 種となった。

多く確認された種としては、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ナミテントウ等の草地を主な生息地とする種や、アブラゼミ等の樹林地を主な生息地とする種、クロヤマアリ等の都市域にも生息する種等が挙げられ、これらの種は各調査対象地区で幅広く確認された。

そのほか、ヤマトヒメメダカカッコウムシやハンノキハムシ等、特定の植物を食草として好む傾向のある種は、各調査対象地区の植生に応じて特徴的に出現した。

表 4. 2-36 目別の確認種数一覧(昆虫類・クモ類)

綱名	目名	科数	種数
クモ(蛛形)	クモ(蛛形)	22	87
昆虫	カゲロウ(蜉蝣)	1	1
	トンボ(蜻蛉)	5	12
	カマキリ(螳螂)	1	3
	シロアリ(等翅)	1	1
	ハサミムシ(革翅)	2	4
	バッタ(直翅)	11	24
	ナナフシ(竹節虫)	1	1
	カメムシ(半翅)	29	113
	アザミウマ(総翅)	1	1
	アミメカゲロウ(脈翅)	2	4
	チョウ(鱗翅)	13	37
	ハエ(双翅)	33	71
	コウチュウ(鞘翅)	35	159
ハチ(膜翅)	27	73	
2 綱	15 目	184 科	591 種

注 1: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(平成 29 年 10 月 12 日更新)」(平成 29 年、国土交通省)に準拠した。

## 2) 調査対象地区別の確認状況

調査対象地区別の昆虫類・クモ類の分類別の主な確認種を表 4. 2-37 に示す。

調査対象地区別の確認種数としては、荒川河川敷が最も多く、続いて東白鬚公園、向島百花園となった。荒川河川敷は広い草地環境を有し、草地環境を構成する植物種も水際に生育するヨシや、堤防法面や路傍に生育するクズやセイタカアワダチソウ等、多様であるため、それぞれの環境に応じた種が出現したことが要因のひとつと考えられる。東白鬚公園についても比較的面積が広く、草刈により消失を繰り返すものの広い草地環境を有することが影響しているものと考えられる。向島百花園は小面積であるが、植物種数は最も多く、水生植物や陸生植物等が各環境要素に応じてまとまってみられる地区であり、こうした植物相や環境要素の多様性が影響したものと考えられる。

そのほかの調査対象地区では、公園や民家の植栽を利用するアブラゼミやモンシロチョウ、カネタタキ等が幅広く確認された。

表 4. 2-37 (1) 調査対象地区別の確認状況（昆虫類・クモ類）

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	主要な確認種と確認状況
1	荒川河川敷	123 科 259 種	樹林 草地 グラウンド 河川（水辺）	樹林に生息するアブラゼミ、ヤナギルリハムシを確認した。 草地に生息するモンシロチョウ、セイヨウミツバチ、オンブバッタ、トノサマバッタ、ヒロバネカントンを確認した。また、ヨシ原を利用するヤマトヒメメダカカッコウムシを確認した。 水辺を利用するアキアカネを確認した。 地表付近に生息するハマベハサミムシを確認した。
2	東白鬚公園	103 科 213 種	樹林 草地	樹林に生息するカネタタキ、アブラゼミを確認した。 草地に生息するナミテントウ、ヤマトシジミ、ハラオカメコオロギを確認した。 樹林や草地に生息するジョロウグモ、キイロツブノミハムシを確認した。
3	向島百花園	110 科 207 種	樹林 草地 池	樹林や竹林に生息するムーアシロホシテントウ 草地に生息するヤマトシジミ、クビキリギス、コフキゾウムシ、アゲハを確認した。 水域に生息するアメンボを確認した。 水辺を利用するアジイトトンボ、オオアオイトトンボを確認した。
4	隅田公園	82 科 182 種	樹林 草地 池	樹林に生息するアブラゼミ、ツツジグンバイ、ホタルガを確認した。 草地に生息するナミテントウ、モンシロチョウを確認した。 水域に生息するアメンボを確認した。 水辺を利用するクロイトトンボ、オオヤマトンボを確認した。

表 4. 2-37 (2) 調査対象地区別の確認状況 (昆虫類・クモ類)

番号	調査対象地区	確認種数	主要な環境要素	主要な確認種と確認状況
5	旧安田庭園 及び 横網町公園	79 科 144 種	樹林 草地 池	樹林に生息するヘリグロテントウノミハムシ、サンゴジュハムシ、ツクツクボウシを確認した。 草地を利用するモンシロチョウ、ヤマトシジミを確認した。 水域に生息するアメンボ、トガリアメンボを確認した。
6	大横川親水公園	90 科 170 種	樹林 草地 池・水路	樹林に生息するハンノキハムシを確認した。 草地に生息するナミテントウ、セイヨウミツバチ、イチモンジセセリを確認した。 水域に生息するアメンボを確認した。 水辺を利用するシオカラトンボ、アオモンイトトンボ、湿地に生息するトゲヒシバタを確認した。 地表付近に生息するヒゲジロハサミムシを確認した。
7	旧中川河川敷	93 科 192 種	草地 河川 (水辺)	樹林に生息するアブラゼミを確認した。 草地に生息するナミテントウ、アゲハを確認した。ヨシ原を利用するヤマトヒメメダカカッコウムシを確認した。 水辺に生息するシオカラトンボを確認した。 地表付近に生息するセアカヒラタゴミムシ、コバネハサミムシを確認した。
8	京島一丁目	71 科 120 種	住宅地 広場	住宅地や公園の植栽でアゲハ、モンシロチョウ、カネタタキ、アブラゼミ、ツツジゲンバイ、クロヤマアリ、キイロケアリを確認した。

### 3) 重要種の確認状況

昆虫類・クモ類の重要種として4科4種が確認された。確認種は表4. 2-38に示すとおりである。

また、確認種の生態及び確認状況は、表4. 2-39に示すとおりである。

表4. 2-38 重要種の選定結果（昆虫類・クモ類）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								重要種				
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	③	④	
1	コガネグモ	コガネグモ		●											VU
2	カニグモ	ヨコフカニグモ	●							●					NT
3	マツムシ	ヒロバネカンタン	●												DD
4	ヒバリモドキ	キンヒバリ							●						DD
計	4科	4種	2種	1種	0種	0種	0種	1種	1種	0種	0種	0種	0種	4種	

注1：1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注2：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3：重要種選定基準

①文化財保護法（昭和25年 法律第214号）に基づく天然記念物・特別天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年 法律第75号）における国際希少野生動植物種・国内希少野生動植物種

③環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2018の公表について（平成30年、環境省）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，CR+EN：絶滅危惧I類，VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④レッドデータブック東京2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（平成25年、東京都）における選定種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧IA類，EN：絶滅危惧IB類，CR+EN：絶滅危惧I類，VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，留：留意種

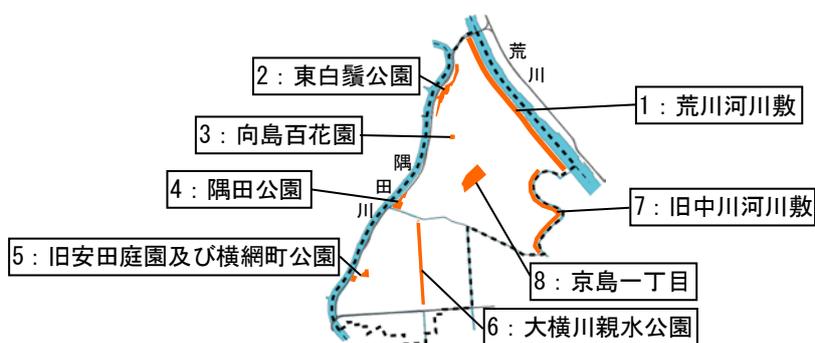


表 4. 2-39 (1) 重要種の生態及び確認状況 (昆虫類・クモ類)

No. 1 コガネグモ	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                      体長は雌が 20-30 mm、雄が 5-7 mm である。メスの背甲は黒褐色の他に銀白色の毛は密生する。腹部背面には黄色と黒色の太い横縞模様がある。一方、雄は全体的に黄褐色である。                      平地から低山地の開けた草原、田畑の周囲、河川敷等に生息し、大きな円網を張る。                      今日までに個体数が減少したが、良好な草地環境が維持されれば繁殖力が強いいため個体数が回復する可能性がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 東白鬚公園)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      春季調査で東白鬚公園にて 1 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p>	
No. 2 ヨコフカニグモ	
<p><b>【生態情報】</b>                      北海道・本州・九州に分布する。                      体長は雌 5~8 mm、雄 3~4 mm である。雌の背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線條や黒斑がある(このような色彩や斑紋には同種の多くに共通)。雄は初期には雌と同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。                      狩猟性で網を張らない。                      平地から低山地の湿原、河川敷、公園の芝生等、比較的丈の低い草原に生息する。                      良好な草原環境も指標種と考えられ、特に河川工事や市街化といった環境変化に留意する必要がある。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 旧中川河川敷南部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で旧中川河川敷にて 5 個体を確認した。                      秋季調査で、荒川河川敷にて 3 個体、旧中川河川敷にて 11 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RL: 準絶滅危惧 (NT)</p>	
No. 3 ヒロバネカントアン	
<p><b>【生態情報】</b>                      本州・四国・九州・対馬・南西諸島に分布する。                      体長は 11~15 mm である。淡緑色で、腹面は黒くならない。カントアンに似るが、雄の前翅はやや幅広く、雌の産卵器はやや長めである。雄はルー、ルー、とゆっくり切って鳴く。卵越冬、年 2 化で初夏と秋に成虫が見られる。                      各地の空地や緑地のヨモギやセイタカアワダチソウ、ハギ類等の上で見られ、個体数も多い(これらの場所に必ずいるわけではない)。                      区部では最近の確認例があるが、ランク判定には十分な情報がない。市街地の空地のように孤立した草地に安定して生息している例もあり、小規模でもキク科やマメ科の草本が生育するような草地環境があれば、個体群は維持されると考えられる。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (夏季調査, 荒川河川敷北部)</p>
<p><b>【確認状況】</b>                      夏季調査で荒川河川敷にて 1 個体を確認した。                      秋季調査で荒川河川敷にて 2 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                      東京都 RL: 情報不足 (DD)</p>	

表 4. 2-39 (2) 重要種の生態及び確認状況 (昆虫類・クモ類)

No. 4 キンヒバリ	
<p><b>【生態情報】</b>                  本州・四国・九州・南西諸島に分布する。                  体長は 5～7mm で、体は透き通った黄褐色をしている。ヨシや                  ガマ類等のイネ科抽水植物帯に生息する。茎や葉の上で雄は高                  くて金属的な声で鳴く。幼虫越冬で春から初夏に加えて秋にも                  成虫が出現することから、年二化性の可能性が高い。                  抽水植物が生育するような湿地の消失により、生息環境が失わ                  れつつあると考えられ、ヨシ原等の湿性草地の維持が望まし                  い。</p>	 <p>出典：レッドデータブック東京                  2013～東京都の保護上重要な野生                  生物種（本土部）解説版～（平成                  25 年、東京都）</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で大横川親水公園にて 3 個体を確認した。</p>	
<p><b>【指定状況】</b>                  東京都 RDB：情報不足（DD）</p>	

出典：「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」  
 （平成 25 年、東京都）

## 2) 外来種の確認状況

昆虫類・クモ類の外来種として1科1種が確認された。確認種は表4. 2-40に示すとおりである。

確認されたアカボシゴマダラは、特定外来生物に指定されている。本種の生態及び確認状況は表4. 2-41に示すとおりである。

表4. 2-40 外来種の選定結果（昆虫類）

No.	科名	種名	確認した地区 (調査対象地区番号)								外来種		
			1	2	3	4	5	6	7	8	①	②	
1	タテハチョウ	アカボシゴマダラ				●						特	総合/重点
計	1科	1種	0種	0種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	1種	1種	

注1: 1 荒川河川敷、2 東白鬚公園、3 向島百花園、4 隅田公園、5 旧安田庭園及び横網町公園、6 大横川親水公園、7 旧中川河川敷、8 京島一丁目

注2: 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

注3: 外来種選定基準

- ① 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）による指定種  
特：特定外来種
- ② 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成27年、環境省・農林水産省）による指定種

### 1) 由来

国内由来の外来種（自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種）と国外由来の外来種があるが、本調査にて確認された外来種は全て国外由来であったため、記載を省略した。

### 2) カテゴリ

**総合対策外来種**：国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。総合対策は更に下記のとおり3区分される。

緊急：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

重点：「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として《被害の深刻度に関する基準》①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

その他：上記以外の総合対策外来種。

《被害の深刻度に関する基準》

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす。  
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

**産業管理外来種**：産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。



表 4. 2-41 特定外来生物の生態及び確認状況（昆虫類・クモ類）

No. 1 アカボシゴマダラ	
<p><b>【生態情報】</b>                  ベトナム・中国・朝鮮半島・済州島等の周辺島嶼に分布する。                  成虫は前翅長 40～53mm になる大型のタテハチョウである。翅は黒地に白の斑紋があり、白黒の縞模様に見える。夏型成虫は後翅後部に赤い斑紋を持つ。一方、春型は赤い斑紋を持たず、特に雌は黒色部分が少なく全体に白っぽく見える。都市～里山と広く生息し、2010 年以降、関東全域に分布を拡大している。近年では、静岡県や山梨県でも目撃情報がある。                  日本在来種のゴマダラチョウは、後翅に赤い斑紋が無いこと、アカボシゴマダラ白化型より黒い部分が多いことで区別される。在来生物（オオムラサキ・ゴマダラチョウ・テングチョウ等の幼虫期にエノキを利用する蝶類）との競合が懸念されている。</p>	 <p>現地調査での確認個体 (春季調査, 隅田公園)</p>  <p>成虫個体</p>
<p><b>【確認状況】</b>                  春季調査で隅田公園にて幼虫 1 個体を確認した。</p>	<p>出典：「侵入生物データベース」, 国立研究開発法人 国立環境研究所</p>
<p><b>【指定状況】</b>                  外来生物法で特定外来生物に指定（奄美亜種は除く）</p>	<p>出典：「侵入生物データベース」 <a href="http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/">http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/</a>                  (国立研究開発法人 国立環境研究所)</p>

### 3. 区民による生きもの調査

#### 3.1 調査の概要

区民の生物に対する関心を高めるため、区民が参加する生きもの観察会を開催した。

観察会の対象は、昆虫類、水生生物を中心とし、夏季に2回実施した。また、観察会の参加人数は30名を上限とし、時間は2時間程度とした。

調査の概要は、表4. 3-1、調査方法は表4. 3-2に示すとおりである。

また、当日に配布したワークブックは巻末資料に示した。

表4. 3-1 調査の概要

時期	日時	場所	天候	調査対象	参加人数
夏季	平成30年6月23日(土) 13:30~15:30	隅田公園	曇り	昆虫類 魚類 水生生物	8名
	平成30年8月26日(日) 13:30~15:30	大横川親水公園	晴れ	昆虫類 魚類 水生生物	22名

表4. 3-2 調査方法

時期	調査対象	調査方法	備考
夏季	昆虫類	捕虫網による捕獲 ベイトトラップによる捕獲	ベイトトラップは前日に開催者で設置
	魚類	投網による捕獲	捕獲作業は開催者で実施
	水生生物	タモ網による捕獲	



区民による生きもの調査の様子（平成30年6月23日）



区民による生きもの調査の様子（平成30年8月26日）

### 3.2 調査結果

区民による生き物調査による夏季調査（8月実施）では12科13種の昆虫類・クモ類、7科8種の魚類及び水生生物が確認された。なお、科までのみ同定出来た種については、他に同じ科の種が確認された場合は、種類数の計上を含めていない。

確認された生物は表4. 3-3に示すとおりである。

表4. 3-3(1) 区民による生きもの調査の確認種一覧（昆虫類・クモ類調査（夏季））

No.	科名	種名	学名	元の記載
1	ハエトリグモ科	ハエトリグモ科の一種	Salticidae sp.	ハエトリグモ
2	トンボ科	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>	
3		シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	
-		トンボ科の一種	Libellulidae sp.	アカトンボ
4	キリギリス科	クビキリギリス	<i>Euconocephalus varius</i>	
5	イナゴ科	イナゴ科の一種	Catantopidae sp.	食用イナゴ、イナゴ幼虫
6	オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	
7	ヒシバッタ科	ハネナガヒシバッタ	<i>Euparatettix insularis</i>	
8	セミ科	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	
-		セミ科の一種	Cicadidae sp.	セミ
9	カメムシ科	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>	
10	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>	
11	シジミチョウ科	ヤマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>	ヤマトシジミ
12	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	
13	ハムシ科	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>	

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。

表4. 3-3(2) 区民による生き物調査の確認種一覧（魚類・水生生物調査（夏季））

No.	科名	種名	学名	元の記載
1	アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	
2	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon concinnus</i>	カワエビ
3	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Cambaroides japonicus</i>	
4	コイ科	キンギョ	<i>Carassius auratus</i>	
5		モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	
6	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	
7	カダヤシ科	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	
8	ハゼ科	ヨシノボリ属の一種	<i>Rhinogobius</i> sp.	トウヨシノボリ

注1：分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年10月12日更新）」（平成29年、国土交通省）に準拠した。